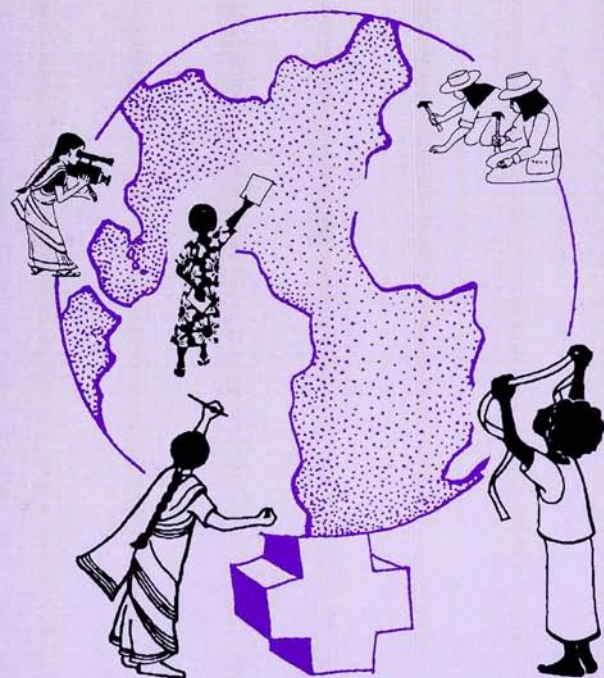




267号
新宿発

二十一世紀の女性政策

国連女性の地位委員会を傍聴して 斎藤美栄子



“Visions are not there to be dreamed alone, they can be transformed into reality. All that is required is the power of a group sharing this vision.”

CSWを傍聴して

斎藤千代 1

女性の地位委員会傍聴記

斎藤美栄子 2

TOPICS DV新法公布／ハンセン病国家賠償請求訴訟勝訴で事実が明るみに ほか 53

集会から 歴史金曲・女性蔑視の「つくる会」教科書を採択させない！／五・三憲法集会 57

TVから 昔の綾子——中国に生きた日本人女性（NHK総合） 61

リポート 選挙に勝った堂本さん 62

沖縄から ハンカチの叫び——4・28普天間包囲／へわったー市長を選ぼう会 名護市長候補を公募 ほか 64

語りかけたいあなたへ36 ゲームボーイ 大里知子 66

あごら読書室 六ヶ所村 核燃基地のある村と人々／朝鮮の虐殺 68

あごらのあごら 70

◆表紙のイラストはアン・S・ウォーカーさんと、ローレル・ダグラスさんの合作

CSWを傍聴して

斎藤千代

三月に開かれた国連女性の地位委員会（CSW）に、初めて出席した。昨年国連二〇〇〇年女性特別総会を傍聴して、この特別総会の準備を重ねてきたCSWにも参加すべきだったと反省したためである。もう一つ、二〇〇五年の世界女性会議は、何としても沖縄で開きたい。その働きかけの気持ちもあった。同行した斎藤美栄子さんの報告のとおり、連日、超過密、目まぐるしい会議だったが、それだけにインパクトも強かった。七五年のメキシコ会議以来、世界の女性たちは、何と強いネットワークをつくり続けてきたのだろう。そして、世界会議で胸に刻み込んだ差別撤廃の志を、それぞれの国で、何と見事に実践してきたのだろう。

本会議と併行して連日開かれたNGOの討論会・研究会は、世界女性会議と併行して開かれるNGOフォーラムのような開放的な雰囲気ではなかったが、どれも真摯で質の高いものだった。そして、アフリカやアジア諸国など、比較的女性の進出が遅れているとされてきた国々が、目ざましく力をつけ、CSWの主要な委員にもなり、世界の二線級の活動をしていることに、とくに感銘を受けた。

中でもお隣の韓国の女性パワーのすばらしさは、「慰安婦」問題を通じてひしひしと感じているが、日本以上に強い儒教思想で低い地位に甘んじていると考えられていた韓国の女性の地位が、日本を遙かに上回る高さになっているのには勉強させられた。日本にはない女性省(男女平等省)も、韓国では昨年暮にスタートしている。国内のNGO同士の情報と運動の共有も、見習うべきことばかりだ。

それに比べて、日本では官民格差が依然として大きい。政府代表のカントリー・レポートには、NGOの情況も意志も反映されていない。私たちNGOの日常の活動とPR不足を改めて感じた。

「二〇〇五年を那覇（宜野湾？）で」には、私が話しかけた外国の人は、みな共感したが、日本人の反応は冷たかった。しなければならぬことの大きさを痛感した二週間でもあった。

女性の地位委員会傍聴記

The 45th Session of the CSW

(CSW = Commission on the Status of Women)

2001年3月6日～16日

斎藤美栄子



今年もニューヨークの国連本部において四五か国の政府代表によるCSW本会議が開かれた。

CSW＝女性の地位委員会とは、安全保障理事会等と並ぶ、経済社会理事會という国連機關の委員會の一つで、設立は一九四六年六月である。一九四五年、国連創設と同時に、国連は第二次世界大戰の原因を追究、ドイツを戦争に走らせた大きな原因の一つは、ユダヤ人差別に象徴される民族差別、日本のそれは女性差別とした。CSWはその結果設けられたという。日本とは根源的な因縁を持つ委員會である。

ところが開設と同時に、世界各国から「女性差別は自分の国にもある」という声があがり、さっそく実態調査を行なった。結果は、各国の差別の深刻さを如実に示した。CSWでは「女子差別撤廃条約」の必要性を強く訴え、一九六七年の「女性差別撤廃宣言」となった。これは画期的な宣言だったが、条約と違って、拘束力がない。そこで、一九七五年、第一回世界女性會議（メキシコ會議）を開き、この年を國際女性年とし、差別撤廃条約締結への道を開いた。

条約は、一九七九年、国連で可決され、八〇年の第二回世界女性会議（コペンハーゲン会議）の席上、署名式が行われたこと、署名を渋る日本政府を、日本の女性たちの熱烈な運動が動かし、日本も署名、一九八五年に批准したこと、しかし、日本の国内法は未だにその水準に達していないことは、女性問題を考えている方ならご承知のとおりである。

CSWは、その後の、第三回（ナイロビ）第四回（北京）の世界女性会議の準備とフォローアップについても中心的役割を果たしており、過去四回の世界女性会議では、国連のNGOリエゾン支援によるNGO会議も並行して行われた。

〈あごろ〉は、CSWに認定されたNGOとして、毎年CSWから招聘があり、在米会員を中心に出席してきた。九九年には東京から小川俣子さんが出席して、『あごろ』248号〜250号で報告した。二〇〇一年は三月六日―十六日開催。斎藤千代さんと斎藤美栄子が傍聴取材に東京を出発した。

三月五日（月）

成田着。二日前に発送してあったスーツケースを受け取り、ぶら下げてきた追加の荷物をそれに押し込む。航空券を受け取り、搭乗手続きをし、スーツケースを渡す。やっと身軽になり、ドルに換金後、出国手続きを済ますと、最終搭乗案内のアナウンスが響いてきた。成田着後二時間が過ぎていたのだ。

五日夕方六時三三分に成田を飛び立った飛行機は、同五日夕方四時三三分NYに到着。飛行時間は十二時間、つまりNY時間では朝四時三三分に出発したということだ。この間、軽食を含み三度の食事や飲み物を摂り、女性会議の資料を読み、NYの下調べをし、日本から持ち込んだ雑用を済ませ、映画や

TVで英語の耳慣らしをし……日常から切り離されて雲の上で過ごすこの時間空間が私は大好きだ。私たちの到着地、ニュージャージー州にあるニューアーク飛行場は雪だった。後でわかったことだが、この日は空前の大雪で、着陸できず引き返した飛行機もあったとのこと。思わぬ寒さに震え上がったものの、無事到着できた私たちは全くラッキーだった。

タクシー乗り場は長蛇の列。係員が立ち並ぶ一人一人に行き先を尋ね、タクシー料金を黄色い紙に書いて渡してくれる。私たちのホテルまでは三十八ドル。スーツケースが二つあるから二ドル追加、有料道路に四ドル。このほかチップも必要だが、はつきりしていて気持ちよい。イエローキャブに乗り込むと、もう一人女性が案内されて乗ってきた。日本からの女子大生だという。同じ方向なので相乗り。料金はそれぞれが規定通りに払う。割安にはならないが、効率の為に資源や環境の為に結構なことだ。2nd.アヴェニュー42ストリートにあるNYヘムスレーホテルに到着（ニューヨークは奈良や京都のようにほぼ基盤の目のように道が走り、番号がつけられていて分かりやすい）。国連は1st.アヴェニューから隣の道にある。反対側に三ブロック歩くと有名な五番街で、高級店が並んでいるはず。すっきり片づいてる部屋に入って荷ほどきをし、飛行機の中で「サバイバル」と称して貯えたパンで食事を済ませ、明日の準備を終えて、入浴。やれやれとベッドに横たわる。長い一日が終わった。

CSWは月曜から始まるが、今年は三月五日がムスリムの祝日だったので国連は休みとなり、会議は六日から。

例年どおり〈NGOコンサルテーション〉がその前日（五日 九時〜十七時）ニューヨーク大学医学部で開かれた。今回のテーマ「女性・女兒・HIV/AIDS」「ジェンダーとあらゆる形態の差別、特

に人種主義・人種差別・外国人排斥と、それに関連する不寛容」についてオリエンテーションがあった。午前中は、キャロライン・ハナン国連事務総長補佐の基調講演に続き、「人種主義」と「HIV/AIDS」の二つのパネル討論。午後は、HIV/AIDS、人種主義、CSW作業計画の三つの分科会に分かれて討論があったが、日本の仕事の関係で五日夕方到着した私たちは参加できず、これはその後の日程等を知るうえで大きなマイナスになった。

三月六日(火)

出発前から睡眠不足続き。さぞかしゆっくり眠るだろうと思いきや、二人とも五時半には目が覚めてしまった。外を見ると、ビルの町はうっすら雪化粧をしていた。濡れた車道を、頭に雪を乗せた車が走っている。前面にそびえる黒いビルを背景に粉雪が舞っている。

ルームサービスを頼むと、ピンクのテーブルカバーにエンジ色の食器で統一させた朝食を乗せて、がらがらと丸いテーブルが運び込まれてきた。優雅な気分分で食事をはじめ。残ったパンは包み、紅茶もペットボトルに入れてランチの用意とし、いざ出発。

ホテルを出て、東に直進し、左折すると、もう万国旗翻る国連だ。

フェンス沿いに職員用の入り口を通り過ぎ、正面のビスターのゲートから入る。ゲートから数段上がったビルの前はオープンスペースになっており、地球を型どった金の球と、銃口をねじ曲げて縛った形のピストルの彫刻が置いてある。国連がNYにあるのいいことかどうか知らないが、第二次大戦終戦後、加盟国も少なかった時代、ロックフェラーに寄贈されたこの地は、何もない寂しいところだったの



ではないだろうか。国連ビルの裏手には目前にイーストリバーが横たわり、広々とした眺めだ。

国連入口で、荷物とボディチェック。ビクターズロビーで招待状とパスポートの写真を見せ、登録用カードをもらい、場所を変えて証明写真撮影。こうして、名前と顔写真つきのパスができあがると参加登録終了。それを首からぶら下げて地下へ降り、書店と郵便局の間にあるガラス扉をガードマンにつこりして（まあ、人によるが）通り抜け、カフェテリアを右後方に素通りして、会議場へ。

CSWメンバー、各国政府代表によるCSW本会議が今日から通常、毎日十時から一時と三時から六時まで、国連ビルの地下会議場の一つ、カンファレンスルーム2で開かれる。NGOメンバーは公開会議を傍聴したり、場合によっては承諾を得たうえで発表、発言したりできるが、決議は政府間代表だけによる非公開会議でつめていく。

〔CSW 今日の議題〕

九時～九時四五分 プリーフィング（『概要報告、NGO向けにCSWとNGO双方から毎朝行われる』）
十時～一時 全体会議、

1 役員選出

2 議題採択及びその他の組織事項

3 第四回世界女性会議（北京会議）及び国連特別総会（女性会議二〇〇〇―二一世紀に向けての平等、開発、平和）に対するフォローアップ

a 国連システム機関における主流化の見直し

b 新たに浮上してきた事項、傾向及び女性または男女平等に影響する問題への新アプローチ

c 重大問題領域の戦略目標及び行動の実施

4 テーマ別議題

(1) 女性、女児とHIV/AIDS

(2) ジェンダーとあらゆる形態の差別、特に人種主義、人種差別、排外主義と関連する不寛容

5 経済社会理事会決議及び合意結論のフォローアップ

6 女性の地位に関する通報

7 第四六回女性の地位委員会の仮議題

8 第四五回女性の地位委員会の報告書の採決

*

本会議が始まると、会場正面の壇上に司会者等、五人が並ぶ。その前に半円状に数列テーブルと椅子が並んでいる。CSWは、国連加盟国すべてが参加するわけではなく、メンバー国は四五か国。今年はアジアからは十一か国。タイが抜けて、パキスタンとアゼルバイジャンが新たに加わった。壇の下、前方がメンバー国代表団の席、その後ろにオブザーバー国のメンバーが座っている。肌も、髪も、民族衣装を交えた服も、色とりどりで美しい。

メンバー国である日本からは目黒依子上智大学教授を代表に、日本政府代表団（外務省の国連日本政府代表部公使ほか、労働厚生、文部科学など各省の女性問題担当者）が、途中交代を含め、延べ十数人参加、うち二人が男性。ほとんどが若い女性なのは結構なことだが、女性会議のような場には、男性に



も大勢来て貰いたい気がする。そして諸外国のように、代表団の半数はNGOが占めたい。私たちNGOメンバーは一階上の席から会議を傍聴する。椅子についているイヤホーンに通訳の言葉が流れる。といっても日本語はない。かつての戦勝国（もう半世紀も前！）の言語だけ。つまり、英、仏、露、中、スペイン、アラビア語だ。

先ず役員選出。議長はCSW委員長のMsシモノヴィッチ（クロアチア）。続いて四人の副議長が選出された。デンマーク、チリ、セネガル、日本。日本は昨年で常任委員国の任期が切れたが、今年も再任され、UNHCR（難民高等弁務官事務所）に転勤になった嘉治美佐子参事官に代わって西村篤子公使（大学婦人協会の会員でもある）が新任され、「新メンバー」として、大きな拍手で迎えられた。今会議のワーキンググループメンバーも五名が選出された。

CSW委員長MsシモノヴィッチによるCSWの年次報告

三月、CSW委員会を開催。その後の熱心な準備委員会を経て、六月、国連特別総会女性二〇〇〇年会議を開催。成果文書「北京プラス5」を得ることができた。その後、各分野で北京行動綱領の内容の実現を推し進めていることは確かだが、更なる努力が必要な問題もたくさん残っている。

九月、歴史的二〇〇〇年サミットが開催され、ミレニアム宣言で、ジェンダー平等が確認された。

十月、国連安保理事会が、女性、平和、安全をテーマに初のオープンディベートを開催し、その推進のために、もっと女性を起用する必要性を認識した。

十二月、国連総会で、女性に対するあらゆる差別撤廃条約の選択議定書が発効、実践を開始した。

と報告、今回さらに建設的で実りの多い話し合いができますように、と総括した。

続いて、今度の会議の議題の承認があり、第四回世界女性会議（北京会議）および国連特別総会（女性会議二〇〇〇―二一世紀に向けての平等、開発、平和）に対してフォローアップすることが確認された。また、二〇〇六年までの計画が提示された。

各部門責任者たちの年次報告

MSアンジェラ・キング―アシスタントセクレタリージェネラル（ジェンダーと女性の地位向上に関する事務総長に対する特別顧問）

政府団、NGO、その他の参加者の活動に対する表敬挨拶に続き、男女平等の視点を政府間の会議に入れる必要を語り、現在問題となっているグローバリゼーションや、貧困、エイズのことともジェンダーの視点を入れて考えるべきと総括。

グローバリゼーションは長所と共に負の側面を持っており、それが女性に及びがちなということも明確に提言。それと関連深い貧困について言えば、一日を一ドルで過ごす人が一五億人、ほとんどが女性。HIV/AIDS患者数は二〇〇〇年末までで三、六一〇万人、と、深刻な問題提起。

女性の行政への進出については、国連内でも女性職員の数徐徐に上昇し、高い地位につく人も出てきていること。平和の分野では女性に重要役割が与えられるようになり、その活躍が期待されていると、明るい面を報告。

その一方、女性への暴力、それ以上にネガティブで深刻な問題として、アフガニスタンのことなど、現在の女性をとりまく問題を網羅。女性の活躍が世界中の女性に影響を及ぼすことを願って、菌切れの

良い、長いスピーチを終えた。

Msノエリン・ヘイザー＝ユニフェム（UNIFEM＝UNITED NATIONS DEVELOPING FUND FOR WOMEN＝国連女性開発基金 事務局長）

今回のテーマであるHIV/AIDSに焦点を絞って語り、女性差別問題の視点を入れて考えるべきと強調。一九九七年に四一％だった女性患者が二〇〇〇年には四七％になった。土地によつては過半数を超えるところが出ている。女性は好まないセックスに対して、安心してノーと言えるようにならなければいけない。

一九九八年十二月の世界AIDSデーに、勇敢にも自分の体験・状況を語った南アの若い女性、グラミニが、その後、村の若い男性たちの投石にあつて死亡した。こうした偏見がなくなる社会を作らなければならぬ。

ハーグでの国連戦犯法廷で、性暴力が犯罪であると定められたのは、つい二週間にも満たない前のことである。二〇〇〇年十月、安全保障理事会で初めてユニフェム等が協力して「女性、平和、安全会議」を開催、戦争の被害を受けている国の勇気ある女性に話してもらう機会を得、それと関連して、ユニフェム等の機関が、二〇〇〇年女性平和賞を設け、この会期中の国際婦人デーに表彰式を行うことになった。彼女の話し方はゆっくりはつきりしているが、力強く、彼女の深い思いが伝わってきた。

続いて、各地域代表のレポート。

・グループ77と中国の議長で代表のMrアサデイ大使（イラン）（ESCWA）

・MrEU代表（スウェーデン）（ECE）

・Mrラテンアメリカとカリビアン代表（ECLAC）

・ Mr アフリカグループ代表 (ECA)

・ Ms テルマ・カイ アジア太平洋代表 (ESCAP)

さらに、その他の団体、WHO、ユネスコ、NGO代表(大学女性国際連盟など)のスピーチ等があり、一時までのセッションが終了した。

昼休みに入ったのだろうと、ホテルから持参したパンと紅茶を自席で摂っていると、会議場にぞろぞろと人が集まり、また会議が始まった。ユニフェムの会議が開かれたのだ。その後も、ユニフェムによるセッションは、CSWの本会議の昼休み(一時一五分〜二時四五分)に、連日開かれた。ユニフェムの日本支部は最近出来、へあごろもそれに加わっているが、いま一つ動きがわからない。今回参加して、ユニフェムはCSWと密接にかかわっており、国連の中でユニセフ同様、高い地位を占めていることがよくわかった。

今回のテーマはHIV/AIDS…女性のチャレンジ。

まず議長のMsヘイザーが、コミュニケーションレベルのリーダーシップが必要。女性のパワーが、HIV/AIDSを止めさせる、と語り、三人の男女のパネリストは、AIDSが単独の問題ではなく、暴力や、貧困、その他の問題ともリンクしていることを再認識させられたと論じた。

さらに継続したディスカッションでは、アフリカの若い男女は文字を読めない人が多いため、無知がAIDSを広めているという意見や、AIDSと分かっていて結婚させられたインドの女性の話などが出た。

AIDSは人災の面も含んでおり、予防、阻止の余地が十分あることを考えさせられた。

三時～六時 全体会議（続き）

午後またCSW本会議。各国政府代表のステートメントだが、その冒頭が、目黒依子日本政府代表の発表だった。目黒さんは、午前の会議で各地域代表が熱をこめて語ったHIV/AIDSと人種差別にはほとんど触れず、昨年の特別総会で採択された「政治宣言」と「成果文書」を評価し、日本政府は女性の力を認め、男女共同参画社会を二一世紀の重要課題としていること。「女性二〇〇〇年会議」を受けて昨年十二月に十一重要目標からなる「男女共同参画基本計画」を作成、二〇一〇年達成を目指して、二〇〇五年までに見直しをする予定であること。今年三月、行政改革で男女共同参画室が「局」に格上げされ、男女共同参画会議も面目を一新、懸案の女性問題のナショナル・マシナリー化が実現したこと。グローバリゼーションに伴い、貧困問題も浮上しているが、一九九九年日本の章頭取りで、国連に「人間の安全保障基金」が設けられ、日本でのG8サミットの結果、今年一月「人間の安全保障委員会」設立が発表されたことを挙げ、HIV/AIDSも人間の安全保障と関わる問題だとして、今回のテーマと結びつけ、日本政府は「沖縄感染症対策イニシアティブ」とからめて、これとも真剣に取り組む意向であると述べた。最後に、子どもの人権を守るため、今年十二月には「第二回児童の商業的性的搾取に反対する世界会議」を開催する決意を披瀝。日本政府は、国内外のジェンダー問題や、女性の状況改善にあらゆる努力をする決意であると結んだ。

以上のメッセージを聞いて思った。ここに来ている外国の人は日本の活動がいかにも活発だと思うだろう。十年前に比べると行政の活動は確かに盛んになったが、政府のスピーチには反映されない深刻な女性問題もまだまだあるということを、一般の日本人は、どの程度認識しているだろう。まじめなマスコミが書いているそういう記事を、TVなどが日常的にもっと取り上げればいいのに、と。

*

その後も各国代表の話が続いたが、日本のスピーチも聴いたことだし、と思って、NGOの集まりのほうに出席してみた。

この本会議場の会議と並行して、NGOの会議も、主としてUNCC(国連チャーチ・センター)二〇〇〇年特別総会の時、〈あごろ〉がワークショップを開いたところを中心に、いろいろな場所で行われるな会合が開かれている。会期中の行事は別表(15く17ページに掲載)のとおりだが、実に多彩で、体がいくつあっても足りない。千代さんと手分けして参加する。

私は「人種主義と、地方の女性の発展のために」(写真)がチャーチセンターで三時から始まっていたので途中参加した。二十人ぐらいの女性が四角くテーブルを囲んでいる。

黒人女性…女性に自立せよと言う。でも職にありつくのが難しい。ビジネスを起こせばいいと言う。でも銀行がお金を貸してくれない。男は大金を借りて破産するのに。でも女性も少しずつ借りて、返して、また借りる、を繰り返したらよい。女性は子育てや社会貢献をする本性を持っている。自信のあることを仕事にすればよい。掃除会社とか、子どものお弁当を作る会社とか。自分は三年前から仕事を興している。

中国女性…自分も二万四千ドルからはじめた。マスメディアが女性に対し、ネガティブなイメージを放送する。女性の強く積極的なイメージを放送してほしい。

カナダ女性…カナダでは女性問題を年中放送している。

南ア女性…言葉と文化のバリアがある。

別の女性…コンピューターが都会と地方のバリアを無くしてくれる。



「人種主義と、地方の女性の発展のために」

白人女性…民族間では文化交流がいい方法だと思ふ。

部屋の後ろには、民族作品である織物などが展示販売されていた。私は大好きな民族音楽のテープを購入した。ブランド物を買いたいさるよりこういう物を買うほうが助かる人があるのでないかしら（五番街近くに滞在したけれど、ブランド品は買わ（え）なかった）。

*

☆新著作発表とレセプション 六時から八時半。

ユニフェムから新しく二冊の本が出され、その集いが開かれるというので行ってみた。先ず北京会議と国連女性特別総会二〇〇〇年会議のビデオ上映。近く発売になるという。本は「ユニフェム基金による、女性への暴力をなくすための方策」と『訓練マニュアル』の二冊。著者など関係者が紹介された。

その後、椅子が片づけられ、レセプションが始まって、飲んだりつまんだりしながら自由におしゃべり。テーブルの上に出されたのは、ジュース類の他は、ディッピングをつけて頂く大きなポテトチップスのようなもの、小ぶりのリング（丸かじり）。イチゴ、メロン、オレンジ等の盛り合わせ。野菜サラダの盛り合わせ。内容はプロッコリ、カリフラワー、人参、ピーマン、セロリ、キュウリ等、どれも洗ったままの生なので、あごのよい運動だ。生鮮食料に欠乏していたので、ありがたく頂いて夕食とした。

*

疲れていた上に英語漬け。ホテルに戻って一時間ベッドに横になった。今日一日で、会場から持ち帰った書類やチラシが何十枚もある。国連関係、NGO関係、明日のチラシ、その後のチラシ、過去の資料とこちゃこちゃ。明日のプログラムもどれかわからない。再び起き出して、その整理、予習復習するの三時間もかかってしまった。何だかお腹が空いてきた。明日の朝食を楽しみに「グッナイ」。

期間中に開かれた催しもの

「フオーラム」

「性産業と人種主義」女性の人身売買に反対する連合／ガブリエラ・ネットワーク（七日）

「パネルディスカッション」

◆六日

「HIV/AIDS リーダーシップ最大の課題」ユニフェム／国連AIDS合同計画／国連人口基金／ユニセフほか
「女性の健康と生活の質におけるカイトプラクティック医療の展望」NGO健康委員会／世界カイトプラクティック協会
「人種主義と農村女性」農村開発リーダーシップ・ネットワーク

◆七日

「性産業と人種主義」ガブリエラほか
「女性と女兒の健康権 HIV/AIDS、タバコ」女性の地位NGO委員会／

タバコの害を受けない子どものためのキャンペーン

「権利・儀式・害悪の文書化、よい実践例のモデル発見」女子割礼／女性性器切除」UK女性国内委員会

「ジェンダーの危機」世界銀行

「女性の人権提唱運動と人種主義に反対する世界会議」ユニフェム

「グローバル化」女性と労働の新しいパラダイム」ジュネーヴ・ニューヨーク女性の地位NGO委員会

「HIV/AIDS、女性及びメンタル・ヘルス」メンタルヘルスNGO委員会
「ジェンダー・人種・世界経済」経済的正義を求める女性国際連合

「二〇〇五年に『メタ』世界女性会議はあるのか？」UK女性団体国内同盟

◆八日

「女性と平和」国際女性デー特別行事

「女性、平和、安全保障に関する安全保障理事會決議1325 次は何か？」女性・国際平和・安全保障連合

「働く女性とHIV/AIDSとの闘い——よい実践例の取り組み」労働組合と女性国際連合／労働コーカス

「最前線」HIV/AIDS蔓延を止める世界的闘いにおける模範的ユース・プログラム」NGOユース・コーカス／CSWNGO委員会

「国連における五〇対五〇」国連における女性の平等権グループ／WEDO

「HIV/AIDS リーダーシップ最大の課題」ユニフェム／国連AIDS合同計画／国連人権基金／ユニセフほか

「東京女性国際戦犯法廷での歴史的判決を祝う」SCENT/VAWW-NET Japan／韓国協議會／女性世界リーダーシップ・センター／国際女性人権クリニク／慰安婦問題ニューヨーク連合／ガブリエラ・ネットワーク／平和と自由女性国際連盟ほか

「女性、女兒、HIV/AIDS」女医国際協會

「平和のためのレシビー 平和のテープ

ルにつく女性」ユニフェム／国際アート

◆九日

「人種、階級、女性に対する男性の暴力世界的規模を探索する」女性の地位向上のための国際調査訓練所／ユニセフ

「HIV/AIDS 母と子、母乳哺育」国際健康意識啓発ネットワーク

「意志決定への参加のための重要な情報へのアクセス」国際女性協議会／CSW NGO委員会

◆十二日

「ジェンダーとあらゆる形態の差別、特に人種主義、人種差別、外国人排斥及び関連する不寛容」世界女性リーダーシップ

◆十三日

「武力紛争の状況におけるジェンダー、人種主義、民族的要因 結果と矯正策」世界退役軍人連盟

◆十四日

「難民女性 人種主義と差別の視点」難民女性と子どものための女性委員会

「ビルマの女性 HIV/AIDSと軍

国主義」ビルマ国連事務所／人権NGO

「ジェンダーと軍縮」CSW

「女性のための通信戦略 女子差別撤廃委員会とCSW」女性国際同盟

◆十五日

「女兒の人身売買」宗教NGO委員会

「ワークショップ」

◆八日

「韓国女性NGOの活動…GOとNGOの関係」韓国女性ネットワーク

◆九日

「韓国女性NGOの活動」

「女兒とHIV/AIDS」女性の健康は女性の手で

「女性・女兒・HIV/AIDS 健康の視点」国際女医協会

「プロジェクトのための資金調達へのアクセス」婦人の地位NGO委員会

◆十二日

「ニュー・ミレニアムの情報」Cenacol II

◆十三日

「行動綱領」実施における最高の実践例健康と発達のための女性の体操」

「草の根レベルで性差別と闘う」ユニフェム／婦人の地位NGO委員会

◆十四日

「若者と女性 人種差別と女性の人権」女兒作業部会／CSW NGO委員会

「権利の主張 力の差と」女性の完全な多様性」人権WILD

◆十五日

「ニュー・ミレニアムのための情報」II

「女性と女兒のHIV予防と治療の治療のための戦略」ピリングス排卵法推進コーカス

「円卓会議」

◆十二日

「AIDS流行病を阻止する女性のパートナーシップ」国連開発計画／キリスト教会国内協議会／懷柔県委員会／世界教育協会／メソジスト協会連合／長老派国連事務所

「司法行政における性差別 世界的視点」国際女性法律家連盟／法的経歴を有する女性国際連盟

「アジア太平洋地域女性のメンタル・ヘルス・ニーズ」メンタル・ヘルスNGO委
「性産業、AIDS、AIDS団体」女性
の人身売買反対連合／ガブリエラ

〔コーカス〕

アジア太平洋女性（6、7、12、14日）

アフリカ女性（6、9、12、14）

アフリカ女性議員／政策策定（13）

アラブ女性（6、7、8、14）

英連邦女性（14）

南北黒人女性及び有色女性（7、9、12、14）

ヨーロッパ女性ロビー（6、8、9、12、14、15）

ラテンアメリカ・カリブ海女性（6、7、8、15）

ジェンダーと人権主義（7）

女性・女児及びHIV／AIDS（6、7、12、14）

女性と武力紛争（7、12、15）

女性の人権／人種主義に反対する国連世界会議（8、15）

「人種主義」NGOユース・コーカス（13）
教育・研究・訓練（15）

WEDO 50対50キャンペーン（14）
NGO連絡（15）

コーカス会合（12、13）

「ドキュメンタリー・ビデオ上映」

「女性の人権のための北京+5 言葉ではなく行動を」女性世界リーダーシップ
センター（7）

センター（7）

「フリーフィンギング」（定例以外のもの）

◆七日

「人種主義に反対する国連世界会議」

フェムネット／WILDAF

「50対50キャンペーン」WEDO

◆九日

「50対50（フランス語）」WEDO

「合衆国代表部婦人の地位委員会」

◆十三日

「50対50（スペイン語）」WEDO

◆十四日
「米州機構事務総長の任命」フェムネット／WILDAF

「アフリカ女性」ケニア国連代表部／東部・南部小地域女性議員グループ

「合衆国代表部フリーフィンギング」（16、17も）

◆十五日

「国連HIV／AIDS特別総会」国連AIDS合同計画／NGO連絡サービス

「その他の集会」

「国際女性デーレセプション」ユニフェム（6）

レセプション CSWNGO委員会（7）

「女性、平和、安全保障 ミレニアム平和受賞者は語る」ユニフェム／国際アート（9）

「ミュージカル・リサیتال」国連女性の地位向上部（14）

「アルメニア女性の自由の闘い集会」（15）

三月七日(水)

十時～一時 第四回世界女性会議(北京会議)と国連特別総会(女性二〇〇〇年会議：二二世紀への平等・開発・平和)のフォローアップ全体会議の続き

三時～六時 午前の続き、二〇〇一年以降の計画立案

一時一五分～二時四五分 ユニフェム 女性と拷問キャンペーン(国際アムネスティ)

*

昨日に続き、各国代表(グアテマラ、中国、ザンビア、マレーシア、ノルウェー、ケニア、ブラジル、イランなど)や、UNAIDS(ユニセフ、ユネスコ等、七つの国連関連団体)及びILO等によるステートメント。

各国のスピーチ内容は、微妙に個性が出ている。

「北京会議以来、多くのチャレンジがなされてきた。これからも一層効果的な対策がとられねばならない。情報や、教育、保健活動などが重要な役割を果たすであろう」等と、建て前だけを述べる男性代表の国がある一方で、ケニアは「二〇〇五年をめどに具体的な行動計画案を作成した」と発表。グアテマラは「一、九七〇万の人口のうち、五一・二%が女性だが、その七〇%は貧困層に属している。女性の文盲率は四五%、十万人の出産につき、一九〇人の妊婦が死亡している(五二六人に一人)」と具体的な数字を挙げて、現状報告し、さらに、「女性の就労の場は、農業、製造業などに集中しており、公共機関や、専門職に従事する数は、増えたとはいえ、北京綱領の理想からはほど遠い。しかし、グアテマラ政府は、

家庭内暴力阻止の機関を作ったし、女性への識字教育、母性保護等、多くの目標事項を作り、その実現を目指している」と述べた。

ザンビアは、「わが国でのHIVの増加の原因に次のようなものがある。●他の性病と共に感染する可能性が高い。●伴侶以外にセックスパートナーを複数持つことが、一部のザンビア人、特に男性の間では慣習になっている。●コンドームの使用習慣が少なく、伴侶以外の場合で、男性で三人に一人、女性で四人に一人しか使っていない。

政府は次のような対策をとってきた。●カウンセリングの充実・感染検査の普及 ●コンドーム使用奨励・輸血感染阻止・感染母乳を与えない ●マスメディア、教育による啓蒙等々。その結果、一九九八年には、感染率は二八%から一五%に減少した」。

中国は、「グローバルゼーションにより国同士の貧富の差が開き、貧困の女性化が進んでいる。先進国はもつとその荷を負うべきだ」としたうえで、「我が中国は二〇一〇年までの計画を完成した。この新しい計画で、中国女性の状況は大いに進展するであろう」。

マレーシアは、「公共機関で決定権を持つポジションの一四%を女性が占めている。女性の健康管理も男性に劣らないため、女性の平均寿命が、一九九五年から五年間で七四歳から七四・七歳までに伸びた」と発表。

韓国のスピーチには、ドキンとさせられた。「二一世紀を迎え、女性問題を解決するに当たって、過去の犯罪を清算することもまた、大切である。つまり韓国慰安婦の問題のような。——その意味で、日本は、国際的な場に出て、その国家責任を認め、心から謝罪し、補償する努力をすべきである」とはつきり語ったのである。

今日も一日中、各会場でNGOのセッションも開催されている。いくつかの会場へ行ってみた。

へ性産業と人種主義 五人の女性によるパネルディスカッションと質疑応答へ

日本のパネリスト、羽後静子さん（あごら会員）は、「一九八〇年代、経済が向上し、グローバリゼーションが進展すると、セックス産業も盛んになり、東南アジアへ進出するようになった。東京での性産業の中心地は、新宿、歌舞伎町」と報告。（詳しい報告は、夏の『あごら』に掲載される予定）

フィリピン婦女子の売春反対の活動をしている女性は、「フィリピンには米軍基地があり、セックス産業が成り立っている。これは人種差別である」との発言。おお！ 沖縄と同じ問題を抱えている。一緒に基地問題に取り組むとよい、と思い、名刺をもらってきた。

売春調査と教育を行なっている白人女性は「高校でセックスについての教育をしたり、大学生男子の意識調査をしている。母親の育て方が大事」と話した。

その後のディスカッションでは、「ボルノのボーコットをすべき。セックスは愛とは無関係」との意見も出た。「スカンジナビアでは、貧しい父母は子売る風習があった」との発言を聞いたとき、「お菓子の家」の話を思い出した。貧乏で手放した子が、何処かで幸せに暮らして居てほしいとの、親の願いから生まれた話で、あのような民話がヨーロッパ各地にあるという解説を聞いたことがある。今でもそのようなことが地球上からなくなっていないのだ。

へアジア太平洋女性コーカスへ

アメリカでは珍しく同じ肌の色の女性ばかりが二十人ほど、小さな部屋に集まった。フィリピン、バングラディッシュ、国立台湾大学助教授、韓国、香港、チェンマイ大学、日本からも数名。「UNでは黒

人間問題が多い。アジアの問題ももっと話し合わねければ」ということで、テーマとして、移民・貧困・紛争・難民、人身売買、カースト制度等が出た。日本からは「基地問題も」と、提案された。アジア太平洋女性コーカスは、以後毎日一時間ずつ継続して昼休みに開かれることになった。

このコーカスで配られた、ある二つのNGO団体のパンフレットを見ると、一つは一九九六年設立、一つは一九九五年の北京会議後設立と書かれている。北京会議がアジアの女性に力を与えたということだろう。

韓国女性の二つのグループは、二〇〇三ページの英文の会報を出している。そのどちらにも、東京で開かれた、日本政府の韓国慰安婦に対する「女性国際戦犯法廷」のことが掲載されていた。「南北朝鮮の協力と国際的裁判官により、日本政府と天皇の犯罪がはっきり認められたのは画期的なことである」と、そのいきさつ、情景が二、三ページをさいて写真入りで、詳しく報じられているが、日本女性の尽力については一冊に、「コ・スボンサード バイ ジャパン」と一言書かれていただけ。もう一冊には、日本で開催されたことすら記されていないかった。

「日本政府ははっきりした謝罪と補償を行っていないが、日本女性は、この問題に心を痛め、この法廷の開催と成功のために必死で奮闘してくれた」と書いてくれば、日韓女性の連帯感も強まったであろうに。

しかし、とにかく一九八〇年代にできたこれらのグループが、しつかりした英文の会報を出して、世界にアピールしているのはすごいと思う。

今日の出席者は日本人が一番多かったにも関わらず、何も配るものがなかったのは物足りないことだった。〈あごろ〉も用意すべきだったと思う。



＜女性の地位委員会NGOレセプション＞

六時から始まったレセプションで、功績のあった女性にバラ一輪ずつが贈られた。最後にアンジェラ・キングさんには「Women of Merit 賞」が授与された。美しい褐色の肌の彼女は、賞品のクリスタルの地球を掲げて、息子（長く編んで垂らした何本ものアフロヘア、口ひげを生やしている）を呼び寄せ、肩を抱かれて、歓声、拍手、フラッシュを浴び、幸せそうだった。

会場の後ろには、アフリカの民芸品（腕輪、器、かごなど）が販売されていた。ボルチモアのフェミニスト・エキスポ二〇〇〇でも、国連特別総会女性二〇〇〇年会議でも、アフリカや南米の民芸品が販売されていた。そういうものがすぐほしくなる私は、二つで五ドルの腕輪を何本も買って、以後毎日はめて遊んだ。服に合わせて今日はパープル系にしようか、黄色とブルーのがいいかななどと、ささやかに楽しんで。

八時半までビュッフェで食事しながら、どこから来たの？ 何やってるの？ と軽い会話を交わし、民族衣装のアフリカ女性と写真を撮ったりしてなごやかに交流、一日を終えた。

三月八日（木）

今日は3・8国際婦人デー。各種集会も特別。

3・8だからだろうか。通常のブリーフィングに続いて、アフリカNGOの女性等による、アフリカ現代史を垂れ幕に掲げての発表があった。

一九六〇年代…アフリカの独立が相次いだ時代。しかし女性は無報酬の家事に従事するだけで、何の力も持っていなかった。

一九七〇年代…アフリカ資本主義と社会主義の時代。フェミニズム台頭。

一九八〇年代…構造調整の時代。フェミニズム。

一九九〇年代…アパルトヘイト廃絶。多政党時代。HIV/AIDSの拡大。民族戦争。

九時四五分 映像…「女性、平和、安全」

十時～十二時 国際婦人デー特別行事「女性と平和」

今年の国際婦人デーは、二〇〇〇年十月三十一日に国連安全保障理事会で採択された決議1325（女性、平和、安全について）に焦点が当てられた。

午前中の全体会議のテーマは「女性と平和…紛争に取り組む女性たち」。

第一部…国際婦人デー開会の言葉は、国連事務総長代理のMsフレシェット。人権ネットワークをつくって平和活動をし続け、男性を説得したソマリア女性等の例を語り、「こうした活動を世界的に結びつけて、世界の紛争の解決や平和建設を達成したい」と述べた。

続く第一スピーカーは国連総会委員長Mrハリ・ホルケリ。「国連は、女性の力無しに紛争を解決するのは難しい」

第二スピーカーは安全保障理事会委員長Mrイエリチェンコ。

第三スピーカーは昨日受賞したMsアンジェラ・キング。頭にすてきなスカーフを巻いて「チエチエンその他の紛争国の母親が平和を訴えている。いろいろな女性の機関ができて協力し合っているし、国

連も熱心に平和活動をしている」と訴え、大きな拍手を受けた。

第二部…モダレーター(司会者)はMrサーシ・タルール。

紛争解決や阻止に功績があったとして、UNIFEMから二〇〇〇年女性平和賞を授与されたコソボ、パキスタン、ルワンダ、コロンビア出身の女性とパプアニューギニアの女性たちが壇上に。

ゲストスピーカーはフィンランド人のMsエリザベス・レーン。司会者は、彼女が元ボスニア・ヘルツェゴビナ駐在国連特使であつたと、現在の数々の肩書を並べ立てて紹介した後、「ユー・ハブザフロアー」とスピーチを促した。ピンクのスーツ姿の彼女は、「フォーマルな肩書の紹介ばかりでしたが、私は四人の子どもの母であり、十一人の孫のおばちゃんでもあります」とにこやかに第一声を発し、国連総会ホールを埋めた人びとの和やかなざわめきと拍手を浴びた。そして、ボスニア・ヘルツェゴビナ滞在中の彼女の姿勢を語りながら、なぜ紛争の場に、女性の派遣が必要かを語った。「戦争で、死傷するのは男性が多い。しかしその戦中・戦後、女性と子どもがどんなに悲惨な目にあっているか、私は多くを見、共に泣いてきた。ある種の状況下では、何人もの男性より、一人の女性のほうが信頼される場合もあるものです。高い地位の男性に口をきくよりも、女性のほうがいい時があるのです。男性は、ボディガードを従えたり、武装車に乗ったり、相手から距離を置いたりして、威厳を示すことができますが、女性にはめったにそんなことはありません。私はボスニア・ヘルツェゴビナの人びとの実生活に、できるだけかわるようにはしました。子どもたちの運動会にも行きましたし、結婚式や葬式にも参加しました。山で、一緒に食事をして、共に地雷をよけて歩きました。息子を失った母親と共に泣きました。国連という肩書抜きで友達として、母として、祖母として……。そして、スピーチを次のように締めくくった。「手を握ることは信頼と平和を生み出すのに悪い方法ではありません。そう、それが女性のやり方なのです」

彼女の英語は平易でわかりやすい。英語を母国語としない人たちに良く理解してもらいたいと思えば
こうでなくてはいけない。感動して聞いていたら、司会の男性も、「サンキュー、パワフル ムービング
(感動的な) スピーチ」と受けとめた。すてきなおばあちゃんだ。世界中に子育てが済んだこんなおば
あちゃんが散らばっていたらいいな。

次に紹介されたのは、国際女性平和自由連盟のMsフェリシー・ヒル。「国連でこうして国際婦人デー
を祝えるのは大変光栄なことです。去年のこの日この会場で、皆さんのすばらしいスピーチを聴いて、
私は泣きました。第一次世界大戦の反省から生まれた機構の代表として来ていて、この時、言いしれぬ
希望と安堵の念を抱いたのです。ドアが開きかけているのを感じました。そして、安全保障理事会決議
1325女性、平和、安全に到達したのです。これを読み、使い、広めましょう。五五年を経て初め
て安全保障理事会は女性について語ったのです。これを安全保障理事会のアジェンダに載せることに同
意してくれたナミビア大使がとう。これを取り上げてくれたバングラデシュの大使がとう。い
つも私たちをサポートしてくれた安全保障理事会唯一の女性理事、ジャマイカ大使がとう。何年も
かかってこの基礎を築いてくれたアンジェラ・キング、ノエリン・ヘイザーがとう」彼女のありが
とうは、延々と続いた。「ありがとう、ありがとう。軍縮を呼びかけてくれた、平和の対話の道を開いて
くれたスーダンの女性、国際犯罪法廷で女性コーカスを開いてくれた女性たち、そして、戦争で生き延
びた女性たち、名もしれず戦死していった何百万もの女性たち、ありがとう、ありがとう……。この決
議は、世界を結ぶ国際的な法律です。女性たちが安全保障理事会で話し合うことができるドアが今ここ
に大きく開かれました。平和への合意が語られ、平和維持の方法が練られる部屋に、私たちは入ってい
けるのです」「言葉は行動に移されなくてはなりません」「怒りを表わそう。暴力でなく、正義の行動で」

「戦争は、神秘的に自然と噴き出てくるものではありません。計画され、訓練され、つくり出されるものであり、遠くから近づいてくるのを見ることが出来るものなのです」

とてもエモーショナル、文学的スピーチだと感じた。

三番目のスピーカーは、茶色のスカーフをかぶった、パキスタンのMsアズマ・ヤハンギール。彼女は戦争中に負傷兵を助け、食べ物と清潔な服を与えた女性の話をした。「その女性は、その兵隊の国籍も聞かなかった。女性にとってそんなことはどうでもよいことだった……」そう、目の前に息子と同じ年頃の兵隊が来たら私もそうするだろう。

『お国のために息子を失うのは光栄です』と、テレビ等で母親が語っていることがある。不自然だし、あつてはいけないことです。もう世界中の母にそんな言葉を言わせないようにしましょう」

拍手が起こった。

スピーカーたちは、ハングリーな経験をした様子もなく、海外旅行で見かけるような何処にでもいる婦人に見える。どうしてあんなに他人の痛みにシンパシーを感じ、あんなに熱心に活動できるのだろう。日本女性ももっとこういう場に出てほしい。自分のことを棚に上げて、そんな感想を抱いた。

*

ところで、「女性と平和・安全保障に関する国連安全保障理事会決議（S／RES／1325）」とは、安全保障理事会が全会一致で採択したもの。この前例のない決議は、女性に対する犯罪の訴追、紛争下における女性と少女の保護の強化、国連の平和維持活動ならびに活動現場に派遣する女性職員の増員、国家、地域、国際レベルの意思決定プロセスに関する女性の参加促進を要求している。国連大学広報センターのホームページによると、その内容は次のとおり。

女性と平和安全保障に関する安全保障理事会決議 1325

十八項目におよぶ決議の中で、安全保障理事会は、

- ・加盟国に対し、あらゆる意思決定レベルにおける女性の代表の増員を要請する。
- ・国連事務総長に対し、紛争解決と和平プロセスの政策決定レベルにおいて、女性の参加を促す戦略的行動計画を実施するよう要請する。
- ・国連事務総長に対し、特別代表・特使として、より多くの女性を任命するよう、要請する。
- ・国連事務総長に対し、国連の現場で展開する活動（軍の監視官、文民警察官、人権問題担当職員など）における女性の役割と貢献を拡大するよう、要請する。
- ・国連事務総長に対し、女性の保護、権利、女性に特有なニーズに関する研修要項および資料を提供するよう要請する。
- ・加盟国に対し、ジェンダーに留意した研修への任意の財政、技術、後方支援を増やすよう、要請する。
- ・武力紛争の全関係者に対し、特に文民としての女性と少女の権利および保護に適用される国際法を全面的に顧慮するよう、要請する。
- ・武力紛争の全関係者に対し、婦女子をジェンダー関連の暴力、特にレイプやその他の性的な暴力行為から守るための特別措置を講じるよう、要請する。
- ・大量虐殺（女性と少女に対する性的、およびその他の暴力行為も含む）の責任者に対する刑事免責を廃止し、彼らを訴追するという全ての加盟国の責任を強調する。
- ・武力紛争の全関係者に対し、難民キャンプおよび居留地の民間的・人道的な特質を顧慮し、特に女性と少女に特有なニーズを尊重するよう要請する。
- ・国連事務総長に対し、武力紛争が女性と少女に与える影響、平和の構築における女性の役割、和平プロセスおよび紛争解決におけるジェンダー的側面、平和維持活動におけるジェンダーの主流化の進展に関する報告書を安全保障理事会に提出するよう、求める。

午後からは「女性・女兒・HIV/AIDS」に関する専門家会議「最前線でHIV/AIDS蔓延を止める世界的闘いにおける模範的ユース・プログラム」(主催 NGOユース・コーカス、女性の地位NGO委員会)があり、ここで出た問題を基に、今回CSWで採決する合意結論案がつけられ、十三日以降、政府間会議で論議されたようだが、私は一時一五分〜二時四五分のパネルディスカッション「安全保障理事会の決議1325(女性、平和、安全について) つぎは何を？」(主催 女性・国際平和・安全保障連合)を聞きに、ダグ・ハマーショルド オーディトリウムへ行った。

凶弾に倒れたハマーショルドさんの名を冠したこのホールは、国連ビルのはずれにあり、急傾斜の階段教室のイメージ。寒い。見下ろす壇上に五人の女性が並んでいる。

最初のパネリストは、お馴染みの、ユニフェム事務局長Msノーリン・ヘイザー。平和建設に女性のリーダーシップが大事だとして、ユニフェムの五つの目標を語った。1、平和活動の質向上のため、現状を良く知る。2、被害女性、女兒の保護。3、平和活動の女性援助。4、公的平和交渉の場に女性を。5、戦後社会の構築に女性の視点を……。

二番目は、アフリカの平和活動家Msキャロリン・ハンナン「我々の全ての問題は、子供の問題、女性問題、皆関連づけて考えなければならない。」

パネリスト3 Msニーナ・ラホード。

パネリスト4 コソボのMsイリアラーナ・ロクサ。「コソボでは女の子は学校へ行くものでないと考えられています。せめて高校までは行きたいけれど。わたしは、コソボのキャンプで泣いている代わりに歌を歌ったし、踊りも踊りました」(彼女はいま歌手活動もしている)と報告。最後に、「みんなの所へ行ってみて。そして一緒に生活してみて。」

パネリスト5 Msフンミ・オロニサキン。

最後に会場の参加者と意見交換。「私たちは敵なんて持っていない。敵なんていらぬ」「違いがあるのは価値あることだ」「継続が必要」「パワーを持て続けよう」等の声が上がった。

韓国女性NGOの活動…NGOとGOの関係

チャーチセンターの一室にコの字型にテーブルが並び、その周囲や後ろにも部屋一杯の人だ。過半数が韓国女性で、数人はチマチヨゴリ姿。これは韓国女性省ができた祝いの報告会なのだ。その為に尽力した人々の紹介が続いた後、ビデオで韓国女性連盟(KWAU)の十年間の活動の歴史紹介があった。「一九八七年、死者も出る民主化の大運動があったとき、女性もキャンペーンを開始。女性の働く場が広まった。その頃、乳児が母親の働いている間に死亡する事故が二件あったのを契機に、デイケアセンター設立の動きが盛んとなった。DVの父親を娘が殺害したことで、DV反対運動が起こった。KW AUから十七人立候補し、十四人の議員誕生」等、映像を解説しながら放映された。

その後、このグループのコーディネーターで、ウオン仏教女性の会長でクワングン大学韓国文学部教授という肩書を持つハン・ジヒュンさんはじめの挨拶。

続いて女性省(英語の表記はMinistry of Gender Equality: 男女平等省)の大臣(女性)の祝辞。

それから二人の女性が、韓国女性省が出来るまでを説明した。それによると、一九七〇年以降、女性NGOは、女性に関する国の機関設立を繰り返し要請してきた。基盤としたのは、過去四つの世界女性会議とCSWの会議。少しずつ女性関連の法改正が行われ、委員会なども出来てきたが、マイナーなものであった。一九九七年、金大中が、女性問題委員会を作り、六つの省内にも女性政策課を置いた。

一年後、女性NGOはその見直しをするフォーラムを開き、力も財力も不足していることを確認。完全な一つの省にすることを要求した。金大中は、二〇〇〇年の新年のスピーチで、女性省設立の意向を示した。女性グループはこれを歓迎するとともに、しっかりと力を持った省にするよう強く訴えた。

二〇〇〇年度を通じて女性団体は新省設立の実現を見守り続けた結果、四月、選挙に際して与党は女性省設立を確約。政府は広く意見を求めるヒアリングを行なった。こうしたGQ、NGOの緊密な協力を経て、今年二〇〇一年一月に女性省ができた。とのこと。

続いて、KWAUの女性リーダー二人がその連盟の活動経過を流暢な英語で報告。

●暴力、差別を受けた女性をサポート。

●働く女性を、経済、医療、精神的にサポートする。

●チャイルドケアセンターを作るなど、社会のシステムを変える。

誰もがいきいきしている。

最後に、はじめの挨拶をしたハン・ジヒュンさんのスピーチがあった。今まで開催された世界やアジアの女性会議にかかわるにつれ、韓国女性のNGOが成長してきたことを述べ、さらに韓国女性NGOの要請などを話した上で、GQ、NGOへの要請を整然と語った。それはそのまま日本にもあてはまるものであると感じた。

●政府はNGOに十分な情報を。

●人材を十分に生かす。(英語を使いこなさなくても能力ある人材を生かす)

●世界会議のみならず、東南アジアの会議を大事に。

●国際会議を自分の国へ。

●若手育成。

●GO、NGO同等レベルで協力を、等々。

その後参加者との対話。

●大変刺激を受けた。(タイ女性)

●一番の障害は?との質問に、資金集め、との返事。

●韓国と在米韓国人との協力が大事。(在米韓国人から)

大勢集まった韓国人の中には、在米も居たのだ。日本のNGOと在米日本人との関係はどうなのだろう。両者のコンタクトは聞いたことがないが。

今日の韓国女性自分たちの勝ち取った成果に満足し、今後に大きな希望を抱いているように見えた。英文のパンフレットや草稿をきちんと配布しているのも偉いと思う。言葉に不自由しない人であっても、一日中集中して全てを聞き取り、メモしながら、質問を考えたりすることは難しい。後で、再考したり、連絡をとったりする上でも、文書は必要だ。

今まで聞いた国際フォーラムの中で、韓国が一番日本と通じるところがある気がした。欧米の女性と日本の女性の状態は少し違う。アフリカや、中近東、アジア南部の日常の問題ともかけ離れたところがある。同じ儒教の影響を受け、教育レベルなどが高まった日本と韓国は、やはり一番共通点があるのではなからうか。ただし韓国女性の方が団結力やフアイトがあつて、何だか強そうな印象を受けた。

フォーラムの後、韓国料理が用意され、ビュッフェパーティーとなった。あまりにおおらかなパン食の米国の食事ばかりしていたので、ちらしご飯や巻き寿司、いろいろな漬け物類、海老や豚肉、てんぷら風揚げ物など、何か日本のと違うと思いつつも、どこか懐かしい思いで頂いた。

国際婦人デー・レセプション

韓国慰安婦の問題で日本政府と裕仁天皇の有罪が決まった二〇〇〇年十二月の東京女性国際戦犯法廷の成功を祝う会が夕方六時から開かれた。会場は立錐の余地もないほどの人、人、人……。法廷の原動力となった松井やよりさんほか、関係者のスピーチの後、裁判のビデオの放映があった。日本にとって遠い過去の話だが、未だに紛争中の国にとっては、現在もまさに燃えさかっている。スピーチの最後は、元「日本軍慰安婦ご自身」が締めくくったが、迫力満点。世界のジャーナリストたちは、ビデオを何度も巻き戻し、体に今も残る傷跡などを指でさわりながら怒り続けている。日本の加害のすさまじさに、日本人たちは皆、身をすくめた。

しかし、日本の行為が過ちだったとはつきりさせることは、現在の女性への暴力を犯罪として、はつきりさせることにもつながる。日本にとって辛いことではあるが、国連に持ち出してよかった。世界から日本政府に働きかければ、日本政府も謝罪せずにはいられなくなるだろう。重い気持ちで帰路についた。

二二世紀女性平和賞授賞式

「慰安婦」のレセプションと時間が重なり、行けなかったが、夜七時から十時まで平和活動に貢献した女性の授賞式。メディアも政府も、女性の犠牲は伝えても、その力強い平和活動の面は伝えていない。そこでユニフェム等がこの賞を作り、今回が一回目とのこと。

選考者は九九年度のニュージーランドの首相ヘレン・クラーク（女性）、ノーベル平和賞受賞の作家、

J. ホルタ（男性）、市民運動家のアリス・ウォーカー（女性）、アパルトヘイト・核兵器・女性性器切除

反対、小説「カラー・パープル」でピューリッツァー賞受賞、ユニフエム代表のノエリン・ヘイザー（女性は戦争の痛みを良く知っているので、男性より紛争予防、解決に適していることが多い、とアナン事務総長も言っているのに、平和交渉の席はなぜいつも男性だけなの？との疑問を持っている人）ら十名。アリス・ウォーカーさんなど、ぜひ会いたかった、紛争の中で、あるいは平和に向けて活動した女性やグループの具体的なお話を聞けなかったのは惜しかった。

三月九日（金）

九時四五分に本会議場に三々五々人が集まってはきたが、週末で疲れがたまってきたせいかな、集まりが悪い。時間が過ぎてもフリーフィングはなかなか始まらない。

フリーフィングの間、NGOは本会議場に入れないものと思っていたが、入っていてもよいことがわかったので、今朝は本会議場に座った。大きな息がよい。大事な書類も手に入りやすい。

フリーフィングの前に議長席に対しフロアから次のような発言があった。「子、孫を持つ者として、HIVをなくしたい。その運動は女性のほうができる」。松井やよりさんは「武装のテーマに、沖縄、韓国の軍事基地の問題が入っていない。レイプなどが行われている。このこともカテゴリーに入れてほしい」と発言。「フリーフィングは始まるの？ 今何やっているのかはつきりさせてほしい」の声には、今日の予定が知らされた。NGOにとつて少し役立つフリーフィングになりそうな気がしてきた。

今日も数々のパネルやコーカスがあるが、私は国連機関INSRRRAWとユニセフによるパネル、人種階級、男らしさ、世界規模で見た女性への暴力に行った。ステージに四人の男性と、二人の女性。最

初の十分は国際的賞を受賞した「I am a man」というビデオ上映。制作者はもとフットボール選手で、現在暴力阻止の活動等をしている黒人男性。ビデオは十五都市の多くの黒人男性にインタビューして、彼らの男らしさが白人のそれとどう違うかを探ろうというものだった。最後の部分には社会的に活躍している黒人の作家や批評家、その他の知識人等が出て、黒人としてのアイデンティティ等を語っていたが、未だに〈白人社会の黒人〉としての自分たちを見つめる彼らに、胸の痛みを感じた。遠い祖国アフリカに住んでいれば、そんな悩みはなかったらうにと思って。「暴力事件があると、黒人男性によるのかと思われがち」と、体格も顔立ちもよい元大学のアメフト選手が顔を曇らせて漏らしたので、よけい哀しみを強く感じてしまった。

アメリカで暴力の問題があると、人種・貧困問題が絡んでくることが多いようだ。その点日本とアプローチが違うと感じた。

ビデオの後は、作家や大学教授等でDVその他女性への暴力問題にたずさわっている男女二人ずつの話と、その著書紹介、そして彼らの所属するINSTRAWの活動の話。女性作家は、インドで長年女性への暴力問題にたずさわり、暴力を受けた少女が男を殺し、死刑になったなど悲惨な話をし、赤ん坊を育てる段階から、たたく必要はないと、徹底した暴力反対を訴えた。

次に行ったのは、国際女性医師協会主催のワークショップ、女性・女兒・HIV/AIDS。

「アフリカでは検査治療を受けたくても近くに施設がないので、罹患しても気づかずに病気を広めてしまう」というアフリカ女性の発言があったが、こんなことこそ早急に何とかならないものか。また薬が高価なので、使うとしたら男性優先とか。医学界にも患者にも女性差別は世界的に存在するようだ。

夕方六時からは日本政府のブリーフィング。「ダイニングルームで」と聞いて、二人でさんざん探し回っ

たが、国連の中のダイニングルームは、どこで聞いても「四階に一か所だけ」と言う。そこには人っ子一人いない。一時間ほど探してあきらめて帰った。(後になって、会場は別棟の簡易食堂だとわかった)

三月十日(土)

やっとというか、もうというか、一週間が過ぎて、初めての休日。初めてホテルのレストランでゆっくり朝食をとった。今日は小川さんおすすめのブルックリン美術館へ行こう。千代さんとNYでも有名なグラントセントラル駅へ。広い構内の一か所の人だかりの中をのぞくと、インド女性とおぼしき若い美人が、優雅にヒップを回して踊っていた。地下鉄で西に向かい、タイムズスクエアで乗り換えて南下、マンハッタン島を出てイーストリバーを渡り、ブルックリンへ。ブルックリン美術館は歩いてすぐだ。巨大な木彫りの品や、非常にユニークなアフリカの彫刻など、見たこともないほどたくさんのアジア、アフリカの展示物鑑賞を満喫した。

ホテルに帰って、パンで夕食、今度はコンサートへ。ピアノとバイオリンコンサートだったが、前半は前衛的な曲目。バイオリンはいっさい歌わず、弓と弦がふれあうハスキーな甲高い響きのみでびっくり。後半で尋常な曲目が出たときはほっとして砂漠に水が染み渡る心地がした。帰りは夜十時。しかし地下鉄に乗った。満員だが、荒れた感じは少しもない。そばにいる女性に聞いたが、夜十一時までは危ないことはないとのことだった。三十年近く前に比べるとずっと治安がよくなっているのに感心。



ブルックリン美術館 アフリカの木彫像

三月十一日(日)

マンハッタンを歩いてみよう、一人でホテルを出た。ホテルの前の42ストリートを西へ進む。小説によく出てくるマディソン街に出た。交差点にお巡りさんが立って、ピストルをぐるぐる回して遊んでいたが、町の雰囲気は怖くない。少女たちや、乳母車を押した夫婦などが日曜日の午前の町をのんびり歩いている。頬に当たる風はまだとても冷たい。

グランドセントラル駅前を通過、かの有名な五番街に出た。交差点で、ソフトクリームを売る派手な車が、可愛い音楽を流している。ブランド店の多い方向と反対に進む。NY州立図書館前にすわる、三越のライオンよりずっと大きいライオン像に若い男女が上って仲間に写真を撮ってもらっている。さらにてくてく歩き続けた。エンパイアステートビルを一度見てみたかったのだ。ようやくたどり着いて見上げてもてっぺんは見えない。中に入ったら、その全貌のパネルが突き当たりにあった。その前に立つて、みんながしているように私も知らない人にシャッターを押して貰った。それから切符を買って、ぐるぐると行列して、エレベーターに乗って、やっと展望台へ。ここも混雑しているが、マンハッタン島がまさに一望の下に見おろせた。東のイーストリバーの河畔には国連ビル。西にはハドソン川。間に挟まるマンハッタン島の上はびっしり高いビルで埋まっている。なるほどなるほど、とにかく納得した気持ちになった。そこから車で大石まゆみ・マーク夫妻宅を訪問。コペンハーゲン会議の〈あごら〉

エンパイアステートビル屋上から見るNY



のワークショップで活躍したまゆみさんは、現在は国際結婚されて、シテイバンクの部長という激職に就いておられる。松井やより、斎藤千代、アメリカ女性、在米韓国人女性と、おしゃべりやディナーを楽しんだ。

三月十二日(月)

爽やかな夜明け。ナイス・ウィークエンドを過ごしたので、リフレッシュされて、さあ、今日もしっかり聞いて来ようとベッドからするりと抜け出し、外を見る。天気は悪くない。電話でモーニングサーブスを注文するのも手慣れてきた。昨日はベーコンだったので今日はソーセージとスクランブルエッグ。グレープフルーツジュースにティーはミルクで。これならコップ一杯分ぐらいの牛乳がついてくる。一人が食パン、一人がペイストリーを頼めばふたりの二食分。

用意するのは、手づくりのランチと紅茶、カメラとフィルム、テープレコーダーと何本ものテープ、きょうのスケジュール表やチラシ、名刺……。何しろ一日外で過ごすのだからその他いろいろ。何でもリュックに放り込み、腰にポシェット。少し早いがいざ出陣。英語力不足なので、遅刻すると何をやっているのか分からなくなる。朝、八時半。歩き出したら真つ正面のイーストリバーの方からサーと陽が射してきた。なんて気持ちのよい朝だろう。全てが黒いシルエットになるのを承知でカメラのシャッターを切る。並木の影法師が、まだ長い。

交差点に、屋台がとまっていて、ケースの中にベーグルや、べったり砂糖の塗られたペイストリー等が並んでいる。幼稚園と小学生ぐらいの子どもを連れたおかあさんが買っていた。朝食なのか、お弁当

なのか。若いOLも買って、私の前をさっそうと歩いていく。

「あらま、奥様、張りきっちゃって、どちらへ？」なんて声をかけられる心配もないので、私もニューヨークっ子のふりして、はき慣れないパンツ姿で、長い足で歩く気分。

おっと、シルクハットのおじさんが歩いている。黒い眉、黒い目、黒いあごひげ。マネの絵の中から抜け出してきたみたい。二二世紀だというのに一九世紀風。いや、一七世紀風のおばあさんもある。何でもありなのか、NYは。

国連ビルの前のバス停で、書類を抱えた女性が、片手をコートのポケットにつっこんで国連に背を向けてバスを待っていた。立ち姿がきれい。国連で会議やつてるなんて、関係ないことなのだろう。NYでも国連は、市民にとっては遠い存在だと言うから。彼女には彼女の世界がある。何を考えているのかな。

正面入り口で荷物とボディのチェックを受けたところで、見知った人に出会い、互いにつこり挨拶を交わす。何日もいると、顔見知りもできるし、何となく気が合いそうな人もできる。この女性は、イギリス人。九日、隣に座った時、「八日のヒルさんのスピーチ聴いた？ すばらしかったわね。私、草稿を持っているけれど」とわざわざコピー機を探して私にコピーしてくれた方だ。

開会一週間が経ち、今週末には閉会となる。そこで今朝のブリーフィングでは、先週の経過を少し話し、今週の予定が述べられた。

今会議のテーマであるHIV/AIDSのことと、ジェンダー並びにあらゆる差別国連に対する不寛容については、別個にミーティングが持たれ、全てが、コンクルージョンに向けて動いている様子。

昼休み、千代さんと国連前にあるジャパンサイアティーへ行き、へあごら会員の川島瑠璃さんにお目にかかり、アメリカの、それもNYだからこ見える国際情勢などがかった。

一時からのNGO会議では、女性法律家や弁護士主催の「司法行政における性差別：世界的視点」を傍聴した。

ジンバブエの女性法律家・離婚等女性関係の問題にしても、法廷で使われるのは公用語は英語なので、理解できない女性が多い。通訳も通常男性。したがって、どうしても男性主導の判決となりがちである。スペイン女性・メディアの扱いなどにしても、性差のバイアスがかかっている。

NY大学の教授・アフリカ女性は、貧しすぎて憲法の恩恵に浴することもできない。裁判を受けることもできない……などの声が出た。

最後に「アイ アム ハッピー トウ ウェルカム レン」と言って、女性差別に関する法律を専門としている弁護士レンさんが紹介され、今後も皆で連絡を取り合っていきましょう、ということに。

三時からは、〈女性の人身売買に反対する連合〉とフィリピンの〈ガブリエラ・ネットワーク〉主催「性産業、AIDS、AIDS団体」のパネルを聞きに行った。

一人目、フィリピン・フィリピンには百五十の言語があるが、そのどれにも、売春婦なんていう言葉はない。それなのに、現在売られていく女性が多い。一つは、家事手伝いとしてだが、第二は売春だ。ほとんど日本で働いている。レイプで殺される子もいる。HIV感染の五六%がセックスによるもの。三四%が薬剤によるもの。

二人目・ある日息子が「AIDSにかかった」と告白し、やがで亡くなった。ポルノなど、セックス産業のあまりの自由化がAIDSを広めた。男は生まれつき野性的な者である。AIDS防止プログラ

ムを作り、教育などにより、女性が全てのセックスの奴隷化をやめさせなくてはいけない。

……ごく普通の感じの白人のおかあさんが淡々と話すのを聞いて、胸痛み、他人事でないと感じた。私の住む港区の町の通学路に、男性対象のヌードの小さいチラシが、電柱などにべたべたと貼つてある。だれも見過ごして歩いていくが、私は、必ず剝がしながら歩く。焼け石に水とは思いつつも。買物の往復で、数十枚にもなったことがある。余り無菌状態にするより、慣れっこにさせた方がいいという意見も聞くが、鈍感になり過ぎて、なんでもありになるのは、危険ではないだろうか。エイズの被害が少ないうちに、日本もしつかり予防しておかないと、あつと言つまに大変なことになりかねないと思う。裕福な国では暴力が、貧しい国では売春が、大きな問題となつている。

しかし三人目のスウェーデンは、「エイズは予防できる。スウェーデンでは男の行為を犯罪として扱える」と語つた。日本でもようやく今年あたりから、「暴力は犯罪である」とのポスターが、あちこちに貼られているのが見られるようになった。明らかに世界女性会議の影響である。

その後の自由発言。

タイ「資本主義が売春を広めた」

フィリピン「TVやインターネットなど、メディアに責任がある。それに、家族間その他で自分の体について性教育がされていないので、TVなどに影響される。ポルノを、TVや、図書館でさえ見ることが出来る。十歳、十一歳の少年が少女をレイプして殺した事件があつた」

アメリカ「経済の問題でもある。アメリカでは性産業が、千七百万ドル(約二千億円)産業となつて
いる」

アメリカを発つ日も近い。音楽会のスケジュール表を見て、どうしても行きたいとマークしておいたコンサートに二人で出掛けた。場所はカーネギーホール。歴代の音楽家の音色がしみこむこのホールを訪れるのは、ピアノをいじくってきた娘時代からの夢だった。今宵は、バッハのオラトリオ。演奏はバッハのオラトリオやコラール専門の楽団。切符を手に入れてほっとし、夕食をすることに。同じように切符を買い込み、パンフレットを見ている婦人に声をかけてみた。「この近くにおすすめのお食事場所ありませんか?」「ああ、それなら、この交差点の斜め向こうのレストランが、お手頃でおいしくていいわよ。」開場を待つ客か、店内は一杯だったが、アメリカ的な、ボリュームたっぷりの夕食と、おみやげのキャンドーのショッピングまで楽しんで、クラシックなホールでのオラトリオにしつとりと心を潤した。

三月十三日(火)

今朝のNGOのブリーフィングでは、南アフリカのダーバンで、八月末に開かれる人種主義に反対する世界会議に向けて、各地域ではどのような準備をしているかが報告された。本会議場の壇上に司会者を挟んで、六人が並んだ。金髪のヨーロッパ人、フィリピン、アフリカ、その他の国の人たちと共に、松井やよりさんも。

アジア太平洋地域代表は、二月にテヘランで開かれたNGOフォーラムと政府間会議について報告。「NGOが採択した『アジア太平洋NGOフォーラム宣言と勧告』が政府間会議では全く考慮されず、しかもインド政府は、政府の息のかかったNGOを使ってロビーイングに成功。人種主義を狭義に解釈して、カースト等の差別を人種主義から除外した」と告発した。UNHCR(国連人権高等弁務官事務

所)は、「会議中は女性ハチャドルを被らなくてもよい」というイランの交渉を受け付けようとしなかったという暴露もあった。

ヨーロッパのNGOは、「EU諸国においては、女性差別に加え、民族差別で二重の苦しみを負う女性が多い」「黒人や、もと植民地から来た異邦人、移民とよばれる人は、女性であるということと同様に、違いが目に見えてわかりやすいため、個人としての能力や価値を認められる前に差別にあつてしまう。犯罪、麻薬、疾病などと結びつけて考えられがちでもある」と述べ、「教育、メディアなど社会の場で、異文化を理解、尊重する風風を促進するように。また、彼女ら自身に対しても、教育、訓練の機会を」など、多くの要求事項をあげていた。午後から彼女らのロビーミーティングがあるとのPRも。

松井やよりさんは、「日本政府が何もしないうちに韓国従軍慰安婦が亡くなっていく。我々NGOが東京法廷を開き、勝利を得た。その報告を三時からカンファレンスルームCでしますから、いらしてください」と報告。

連日、本会議場で、ブリーフィングを聞いたり、会議の司会者を見たりしているが、壇上に日本人が上がったのは初めてなので嬉しかった。もっと多くの日本女性が、リーダーとして活躍しているところを見たい。

*

十時からは、同じ本会議場ルーム2で、「ジェンダーとあらゆる形態の差別、特に人種主義、人種差別、外国人排斥及びこれらに関する不寛容」という、今会期のメインテーマについて、四人のメンバーによるパネルがあり、フロアからの発言がそれに続いた。NGOの私たちは、上の階の席について、イヤホーンの英語訳に耳を傾けていた。相違、多様性を認め合うべきだと語っている。何事もそうだが、これも

子どもの時からの教育が大事だろう。フランス語や英語で語られるのを聞いていると、外国では、女性差別に加え、人種差別の二重苦に苦しむ女性のことが大きな問題であることが分かる。私たち日本人にとっては身近な問題ではない気がしたが、とんでもない。日本でも少数民族差別があるし、在日の方には選挙権がない。韓国入国立大教授が誕生したのは、つい最近の話だ。西アジアの人に「こんなに私の話を聞いてくれた日本人はあなたが初めて」と感謝されたこともある。「誰も私をろくに相手にしてくれないので、日本人とは話をしないことにしていた」と言うのだ。近年、日本にも外国の人が増えてきたが、考えてみたら、「私は純粋な日本人」と思っている人以外は皆、外国人に対する不寛容に悩んでいるのかもしれない。それでは国際国家とは言えない。あらためて見直さなければならぬ。

三時から、「武力紛争の状況におけるジェンダー、人種主義、民族的要因…結果と矯正」のパネルへ。この席で、パネリストの一人、松井やよりさんが、昨年十二月、東京で開かれた「日本政府従軍韓国慰安婦問題を裁く女性国際法廷二〇〇〇」で「天皇裕仁有罪」となったことを発表。このことを世界に知らせ、政府にプレッシャーを与えたいと語った。

*

五時に終わって、会場から出る。廊下沿いにはコンピューターが並んでいて、いつも誰かしら、何かを検索したりメールを送ったりしている。顔見知りになった韓国の人が、メールを打っていたので、声をかけて、私も隣のコンピューターに向かってみた。私の持っている機種と違うし、と戸惑っていると彼女が「分かる?」と振り返って、スタートを押し、プログラム、ネットスケープナビゲーター、ヤフー……とつぎつぎ打っていった。「パスワード何にする?なんでもいいわよ」「さあアドレスは?」と、あつと言う間にメールを送れるようにしてくれた。(あゝ)と自分の家へ送って帰国してから見たら、ちゃ

んと届いていた。顔を合わせると、いつも威勢良く明るい声をかけてくるこの韓国の大学の先生の、はじけるような笑顔。日本政府は「日本には人種問題はない」と言っているが、身近なことから一つひとつボーダレス化していこう。

*

ホテルに帰ると、へあごらUSAの今野望さんがいらした。昨年 of 国連特別総会では、ずいぶんお世話になった。お陰で千代さんと三人で急造のワークショップを開くことができたし、チラシやポスターも何とかつくった。短い期間だったが、本当に息の合った仲間。お互いに抱き合って喜んだ。その後カウンセラーとして着々と売り出した彼女は、超多忙。今度のCSWは学会と重なって参加できなかったから、と、フランス料理のご招待。豪華な雰囲気を楽しみながら、遅くまで語り明かした。

三月十四日(水)

胸に下げた写真入りパスをゲートで見せて数段階を上がり国連内敷地に入ると、誰とでも挨拶してしまう。「いいお天気ね、私東京から来たの。あなたは?」「あら、ロングウェイね、わたしはナイジェリア」「あなただって遠いじゃない」「そうよ。ところで二〇〇五年の女性会議は日本よね」「え、どこで聞いたの?」「みんな言ってるわよ、今度は日本だって」。デマが現実になると嬉しいのだが。

*

今朝のNGOブリーフィングで、やっとアジア太平洋地域を代表してMsバム・ラジプトが二〇〇五年に向けた準備状況について報告した。また、アジア太平洋コーカスは、アフリカ、ラテンアメリカ・

カリブ海地域と共同で、狩猟民、遊牧民を含む先住民、移住者及び人身売買された者、国内的に移動を余儀なくされた者、及び難民などに対する差別についての声明を発表した。この共同声明では、人種主義、人種差別の根本的原因として、人種の優越感に基づく家父長制植民地主義と奴隷制度にあることを強く訴えたのが印象的だった。

アジア太平洋コーカスは、二〇〇五年の第五回世界女性会議の開催を訴える声明も発表した。過去四回の女性会議の見直しと共に、グローバリゼーションや新しい情報技術についてなども話し合いたいとのこと。この二つについては九五年の北京会議では話題に上らず、国連女性二〇〇〇年特別総会会議や、ボルチモアでのフェミニスト・エキスポ二〇〇〇あたりから急に問題になりだした感じがする。

続くフロアからのクエッションとコメントの時、「二〇〇五年では早すぎる。それまででは改善が十分に行われない」との意見も出たが、「先のばしにしたらそれだけ改善が送れる。どうせぎりぎりまで動かないのだから」との意見も聞かれた。「政府に働きかけが大事」とフィンランドの人。「政府に働きかけよう、女性問題はいつだって議題の最後にあるんだから」とトルコの人も。日本ではどうだろう。テレビの国会討論会をあまり聞きもしないでコメントできないが、新聞を見ても、女性問題はいつでも盲腸扱い。韓国にできた男女平等省も日本にはまだないし、女性問題の長は男性の福田康夫官房長官が兼任している。二〇〇一年四月二六日発足の小泉・連立内閣の顔ぶれを朝日新聞で見ると、「官房」との太字の脇に細字で小さく「男女共同参画」と書かれている。

*

十時からアジア太平洋女性コーカスが急ぎよ開いた集会に参加。テヘラン会議でNGOが十分に活動できなかったので、四月二一日から二四日までカトマンズでNGO会議を開く。五月にジュネーヴで行

われる人種主義に関する政府閣會議にも参加するとの発言があった。この席で、香港の人が、香港には民族法がないと発言。房野さんも「日本にもない。しかし移民が増えた今、作る必要がある」と述べた。彼女は「人身売買で日本に入ってきた人を不法入国者として処罰しないように」との見解も持ち、日本政府にも要請したとのこと。人道的に見ればその通りだが、気がつかないでいた。政府への働きかけも大事だが、メディアへのそれも大事だ。メディアが一度発表すれば、その一石の波紋は大きく、国民を啓蒙したり、国民の声を盛り上げたりできる。

*

昼休み、大石さんに紹介された絵本作家ストーン和子さん宅を訪問した。「当初は売り込みが大変だったが今は注文が」と言って、描きかけの線描画がアトリエの座り机の上に広げてあるのを見せて下さった。本棚には、彼女の作品が何冊も。日本人らしい優しい繊細さとアメリカ的な伸びやかさが調和した、楽しい作品だ。書斎を出た後は、彼女が白いペンキ塗りしたキッチン兼リビングへ案内された。「わー、すてき」。気取り気なく自然でいて、おしゃれな空間。写真家だった亡きお連れあいの作品や、お子さん方の写真、美しい色や形のガラス瓶類、観葉植物などに囲まれ、窓からの明るい日差しを浴びながら、菓子パンと香り高い紅茶を頂き、ほっとするひとときを過ごさせていただいた。

*

急いで国連に戻り、二時半からの日本政府のブリーフィングに行った。九日夜もあったのだが会場が見つからず、今回初めて。政府側からは上智大学教授で政府団团长の目黒依子さんはじめ、日本キャビネットオフィスのジェンダー・イコリティー・ビューロー（内閣府大臣官房審議官、男女共同参画担当）の上杉道世氏（きょうの黒一点）、その他の若手女性数人。NGOからは私たち十数人。それぞれが所属

を自己紹介した後、外務省の佐藤さんから一人ずつ経過報告がなされた。佐藤さんは「HIV/AIDS、人種などの差別という今会議の二つのテーマを中心に、武力紛争下における女性の救済など話が進められている」文部科学省の鈴木さんは「九日の協議に基づき、各国提案に対し、比較的順調に全体として合意に向かって話し合いが進められている。今後の各年度のテーマについても話し合っている」と報告。それについて、「HIV/AIDSについては合意に向けて四まで終わっただけ。人種差別については全く協議されていない。十五日から、非公式折衝が始まる。人種差別をなくそうとの一般的な意見が強く、ジェンダーに視点が定まっていない」との目黒代表の補足コメントがあった。また「アイヌや被差別部落、在日韓国人・朝鮮人の問題を人種主義、人種差別と捉えているか」との質問には、「日本政府はこれを差別とは捉えていない」との返答だった。国連の裏では慰安婦問題を含めてこれがやはり問題になっているという話を思い出したが、時間切れになった。

フリーフィングの会議室を出て、歩きながら先程の鈴木さんと話す。彼女は元あこら会員。今の肩書は長い。文部科学省生涯学習政策局、男女共同参画学習課、女性政策調整官。彼女曰く。「NGO側は、政府サイドに積極的な要請を出す」とよい。それでもできるだけ具体的な要請を、繰り返し、しつこく出すこと。それでも通るとは限らないが、政府のほうが何かしてくれないかと待っていてもダメ」と。全くその通りだ。「政府が何をしてくれるか、ではなく、自分たちが政府に何をできるかを問え」と語ったJ・F・ケネディの言葉を思い出した。

*

夕方、女性問題の本を探しに、大石さんに教えて頂いた五三番街とレキシントン通りの交差点にある本屋のチェーン店「バーンスアンドノーブル」へ行き、二階で数冊購入した。(大石さんの話では、女性

問題専門書店は最近はなくなり、女性問題の本を置く数も、以前より減ったという。なぜかしら。

歩きくたびれたので、本屋内のコーナーのテーブルにつき、ひと休み。希望とあらば、カウンターで、チョコレートやティー類を買うこともできるが、買わなくてもよい。ボルチモアにあったこの系列の同名の店と同じ。鞆を脇に置き、コーヒー片手に本を読んでいる大人も子どももいる。ここで一日でも過ごせそうでいいな。「本盗まれたり、汚されたりしない？」と、店員に聞くと、「防犯カメラをつけているし、ある程度の損傷は見込んでいる」との話。日本の各駅前や、住宅街にこんな本屋があれば、子どもをちよくちよく連れて行けるし、若者の本離れも減るのではないかと思う。ベストセラー本が展示されており、ナンバーワンは『フー・ムーブド・マイ・チーズ』日本語訳『チーズはどこへ消えた?』だった。

*

とても残念だが、明日は帰国。ホテルでスーツケースを詰める。一日ごとに仕分けした資料や冊子がずっしりと重い。

夜、勤め帰りの望さんがお別れに尋ねてくださった。外国の地にあっても、信頼できる邦人に会えるというのは嬉しいことだ。誰もが世界中で一番好きなのところで幸せに暮らし、自由に行き来できる世界になってほしいと思う。地球はもともとそんなところだったのではないか。

三月十五日(木)

会議はこの日も大詰めに向けて、真剣な討議が重ねられていたが、東京での仕事がある。後ろ髪を引かれながら夜明けのNYを後にし、九時二〇分、私たちの飛行機は、成田に向けて離陸した。

帰国後の男女共同参画局主催の報告会における目黒依子日本代表の報告によると、最後まで会議に集中された目黒代表はじめ日本政府代表団の皆さんや、代表団顧問の房野さんは、十七日（土）の朝方まで徹夜で集中討議、ようやくテーマ2は採択され、テーマ1は次回に持ち越されたという。参加者は、政府関係者約七百名、NGO約三百名、各国女性省代表担当大臣は、八人ほどいたという。日本政府団の構成は、内閣府、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国連日本政府代表部、及び代表。採択文書

1 決議

- ・パレスチナ女性の状況及び支援（賛成31、反対1（米）、棄権1で可決）
- ・武力紛争下で人質・監禁された女性・児童の救済（賛成31、棄権2（米・印）で可決）
- ・アフガニスタンにおける女性と女兒に対する差別（投票によらずに合意）
- ・国連システムにおける全ての政策・計画へのジェンダー視点の主流化（投票によらずに合意）
- ・女性に地位委員会における多年度作業計画（2002～2006年）（投票によらずに合意）

2 合意結論

テーマ②の「ジェンダーとあらゆる形態の差別、特に人種主義、人種差別、排斥主義及び関連する不寛容」に対しては、四五のパラグラフが合意結論に達した。スムーズに決まったのは、目黒氏によると「うるさ型の国や人が議題2のHIVの方へ行ったことと、G77のチリ代表はユーモアがあつて、一生懸命やったので、皆がそれにのつかつて、いい気分になり、まとまったから」とのこと。

一方、テーマ①の「女性、少女等の免疫疾患（HIV/AIDS）」については、一方で決議案があり、一方で合意があるのはおかしいということで、保留にされ、会期中合意に至らず、五月九日から十一日

に再開されるCSWで継続協議されることになった。

HIV/AIDSの争点は、●男性が先、女性は後回しとなっている ●薬が高くて買えない。先進諸国の政府は治療薬価を下げてほしいなどだが、先進国政府は受け入れ難いとして譲らなかったという。

3 その他の決定

今後の課題

(1) 世界会議のテーマとCSWの作業との関連……ジェンダー・イシューの国際社会での政治化。上記の争点に述べたように、政治の駆け引きが絡まってくる状況をどう打開するか。

(2) 事務局のエンパワーメント……事務局の文書の準備、管理が遅れている。(全くその通り。政府のもの、NGO関係、前日の声明、当日の報告書、数日後の催し物のチラシなど、カラフルな用紙がテーブルなどに雑然と置かれてあり、無駄だったたり、不足だったたり、参加者は困惑した。スケジュール表ぐらい、どこかに大きく貼り出してほしい。その分野のオーガナイザーが必要)

CSWにおける多年度作業計画(二〇〇二年から二〇〇六年)

来年時からのテーマ・イシューは以下のように決定した。重要順位ではなく、今まであまり話し合われなかった事項を前に出したりしてある。

◆二〇〇二年

1 グローバル化する世界における女性のライフサイクルを通じた、女性のエンパワーメント等による貧困撲滅

2 環境管理及び自然災害緩和…ジェンダーの視点

◆二〇〇三年

- 1 メディア及びICT（情報通信技術）への女性の参加及びアクセス、それらがもたらす影響、女性の地位向上及びエンパワーメントの手段としての活用

- 2 女性の人権及び北京行動綱領・成果文書において定義された女性と女兒に対するあらゆる形態の暴力撤廃

◆二〇〇四年

- 1 男女平等を達成するための男性と少年の役割

- 2 紛争予防・管理・紛争解決及び紛争後の平和構築への女性の平等参画

◆二〇〇五年

- 1 北京行動綱領及び成果文書に関する実施状況の見直し

- 2 女性及び女兒の地位向上及びエンパワーメントのための新たな課題及び将来戦略

◆二〇〇六年

- 1 開発への女性の参加促進…とりわけ教育、健康、労働分野を考慮に入れた男女平等及び女性の地位向上を可能とする環境

- 2 あらゆるレベルにおける意志決定過程への女性と男性の平等な参画

【感想】

「女性ばかり集まって何してきたの？」と息子に聞かれた。誰もがそう思うだろう。「人類の平和と幸せを、ジェンダー（社会的性差）の視点も入れて考えること、男女の差別をなくすこと、を話し合ってきた」と言えいいだろうか。ひと頃の女権拡張運動のように狭義のものとは違う。

北京会議の十二項目同様、いろいろな分野の話し合いが連日各部屋で行われたが、今年のテーマ事項



は「ジェンダー」とあらゆる形態の差別、特に人種主義、人種差別、排斥主義及び関連する不寛容」「女性、少女等の免疫疾患（HIV/AIDS）」だった。特にHIVについてはアージェント（早急に）という言葉が、何度も聞かれた。日本でも早急な予防策を一般に浸透させなくてはいけない。

人類の不幸を引き起こす要因はさまざまあるが、中でも紛争は、死、疾病、婦女暴行、難民などの不幸を呼ぶ。差別もまた、人を苦しめるが、人種、性差、家族形態等、差別の種類は多い。病気は、ペスト、ハンセン病、結核、HIV等、人びとを苦しめてきたが、検査や医療チャンスを万全にすること、教育や、性産業チェック等で防げる部分も多い。これらの不幸が、それぞれからみ合っていること、天災より、人災の部分がとても大きいことを再認識させられた。

日本には、戦争も、差別も、流行病もないか？ 戦争の決着はついているか？ 基地問題は？ 無意識に差別したりされたりしていないか？ 日本人は心身共に健康か？ その他もろもろの国内での問題は、世界とは無関係か？ 何を考えるにも国際的視野が必要だ。

国連CSWに参加し、女性の立場が少しずつよくなっていく陰には、こうして熱心に話し合い、行動に移していく世界の女性たちがいたことをあらためて感じたし、世界平和の話し合いに国連が女性の力を期待していることを知った。また、文書を政府代表に渡して国連に陳述してもらうこともできるし、挙手して国連委員に意見を述べることもできる場もあり、国連が身近に感じられるようになった。この経験を多くの人と分かち合い、世界の人びととのつながりを毎日感じながら生活していきたいと思う。

（合意結論四五パラグラフの内容を知りたい方は、編集部どうぞ）

DV——夫婦間の暴力防止へ新法

夫婦間の暴力（ドメスティック・バイオレンス＝DV）は、警察の発表でも一九九九年の五一六件が、二〇〇〇年には一〇九六件に急増、その約八割は傷害、一割は殺人で、深刻な問題になっているが、警察に訴えても「家族の問題」として放置されがちだった。女性たちの激しい運動の結果、ようやくそれを防ぐDV防止法「配偶者からの暴力防止および被害者保護に関する法律」が四月十三日に公布された。これによって、配偶者からの暴力で、生命や身体に危害を受けるおそれ大きい場合、裁判所に事情を申し立てて、裁判所が保護のための措置を講じることができるようになった。

この法律では、婚姻届を出している夫婦のほか、内縁、事実婚、離婚後の前配偶者からの暴力も対象となり、男女が同居している場合は、加害者に、住居から二週間退去す

ることを命じること、被害者の住まいや勤務先に近づくことを六か月間禁止することが可能になる。加害者がこれに違反した場合は、一年以下の懲役か百万円以下の罰金が科される。しかし、申し立てには、必要事項を記載した書面を地裁に提出しなければならず、裁判開始までに十日以上かかる可能性もある。加害者の退去も二週間では不十分、など、問題点も多い。

なお、恋人からの暴力は通常の刑法などで、また児童への暴行・虐待は、昨年施行された児童虐待防止法で対処することになる。

ハンセン病国家賠償請求訴訟勝訴で事実が明るみに

日本政府を相手に起こしていたハンセン病国家賠償訴訟で、五月十一日、熊本地裁は厚生省と国会の責任を認め、原告側の全面勝訴を言い渡した。「控訴して和解を」と考えていた政府も、五月二五日、ついに控訴を断念。一九九八

年七月の提訴から三年、厳しい闘いにやっと光明が射した。

新聞やテレビも、政府声明が出てから、この間の闘いの真実をようやく発表し始めた。患者を隔離する「救らい事業」が貞明皇后の下賜金によって展開したこと、救らいの父と讃えられてきた長島愛生園の光田園長が、実は最も強硬な「隔離論者」で、厚生省の「らい予防法改正」案も、ことごとく握りつぶされたことなど、隠されていた事実が次々と明らかにされ始めた。

戦争責任の追求同様、どの時点で、誰（機関も含む）が、どのような過ちを犯したか、厳密に追求することは、積極的な報道を怠ってきたマスコミの責任として、ぜひ実行してほしい。

「ライは伝染するもの、遺伝するもの」として、患者とその家族を徹底的に差別して、患者を追いつめた大きな責任は、私たち民衆にもある。こうした差別はHIV/AIDSにも共通していたが、カメラに身をさらし、あえて本名を名乗ったHIV原告の果敢な闘いが、今回の勝利を導いたことも銘記したい。

「差別」の意味を考察するうえでも、ハンセン病の歴史は、精密に検証しなければならない。

刈羽原発プルサーマル計画、住民投票で阻止

東京電力・柏崎刈羽原発三号機のプルサーマル計画の賛否を問う全国初の住民投票が五月二十七日に刈羽村で実施され、投票率は八八・一四％。即日開票の結果、反対が一、九二五票、賛成が一、五三三票、保留一三二票で、反対票が投票総数の過半数（五三・四％）を占めた。

この結果、六月一日、平山征夫新潟県知事、西川正純柏崎市長、品田宏夫刈羽村長の三者会談が柏崎市で開かれ、三首長は東電が六月中に実施を予定していたプルサーマル導入計画を取りやめるよう申し入れることで合意。要請を受けた東電は同日、六月中の実施予定を中止すると発表した。中止は、国のウラン燃料循環使用計画の根幹を揺るがすことになるため、政府は猛反撃すると推測されている。

もう一人で 男女同数議会に

大阪府島本町の町議会選挙。人口三万余のこの町、議員二〇人中、女性が六人で、「女性の多い町議会」で知られて

いたが、四月の選挙で定数減の十八人に對し女性九名が立候補。「男女同数」が期待されたが、残念ながら一人が次点に。それでも女性比率四四・四％、日本最高となつた。

島本町は大阪のベッドタウン。都市型の町。女性グループの活動が盛んで、森屋裕子さんたちが、女性を議会に送るバックアップ・スクールを開校している。しかも辻元清美、肥田美代子さんの地盤。日常的な活動の中から咲いた花と言えよう。全国に第二、第三の島本町が生まれることが期待される。

「男女共同参画局」誕生、局長は板東さん

省庁統合により、総理府は内閣府となり、従来の男女共同参画室は、男女共同参画局に格上げ、一九七五年以来の「女性問題担当をナショナル・マシナリーに」の夢に、初めて大きく近づき、CSWでも日本のカントリー・レポーターの目玉として報告された。初代局長は北京会議当時男女共同参画室長として活躍した板東真理子さん。また、労働省の女性局と厚生省の児童家庭局は、厚生労働省雇用均等・児童家庭局となり、局長には岩田喜美枝さんが就任。

半数が閣僚になつた男女共同参画会議

女性問題を討議する最高機関も、「男女共同参画会議」に改まり、定員二四人の半数を二二人の閣僚が占め、残り二人が有識者という構成になつた。有識者は、猪口邦子・上智大教授、岩男寿美子・武蔵工業大教授、神田道子・東洋大学長、小島明・日本経済新聞社常務、佐々木誠造・青森市長、住田裕子・弁護士、橋本俊治・京大経済学研究所教授、原ひろ子・放送大教授、福原義春・資生堂会長、古橋源六郎・ソルト・サイエンス研究財団理事長、師岡愛美・連合副会長、山口みつ子・市川房枝記念会常務理事。

今年から男女共同参画週間新設

男女共同参画推進本部は、二〇〇一年から、毎年六月二三日―二九日の一週間を男女共同参画推進週間として各種行事を全国で実施することを決めた。六月二三日は、男女共同参画社会基本法が施行された日。六月二五日には、男女協同参画社会づくりに向けての全国会議が東京の厚生年

金会館で開かれる。

小泉内閣に五人の女性大臣。しかし――

副大臣二人のうち、女性には南野知恵子さん（厚生労働副大臣。森派。日本看護連盟）ただ一人。ムードで人気爆発の小泉政治。実態は、こういうところにも。

南太平洋の女性が日本全国スピーキング・ツアー

一九四六年七月のビキニ環礁以来、アメリカは五八年までに六六回もの核実験をマーシャル諸島で行なってきた。住民の中には甲状腺障害や癌が多発し、特に被爆女性には生殖器官の癌や異常出産の例が目立って多い。

この現状を訴えるために、ケイト・デユースさん（ニューヨークランド軍縮問題諮問委員・カンタベリー大学平和学講師・軍縮と安全センター共同代表）とメアリ・シルクさん（カレッジ・オブ・マーシャルアイランド・ニューヨークリア・インスティテュート所長）が六月中旬来日し、十一日広島十四日大阪、十五日京都、十六日東京、十七日岐阜、十八

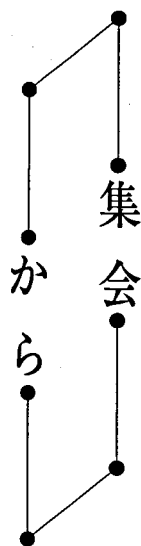
日松山、十九日高知でスピーチし、日本女性と交流する。詳細は日本キリスト教協議会（03・3203・0372）へ。

チエチエンで活動中のロシアの人権団体代表 ビクトル・ポプコフ氏が銃撃死

昨年へチエチエン母親協会のマディナ・マゴマドワさんとともに来日したロシアの人権団体（ヘメモリアル）の代表、ビクトル・ポプコフ氏（『あごろ258号』に掲載）が、四月十八日、チエチエン内で医薬品を携えて医者とともに医療活動などの人道援助活動を行なっている最中、ロシア兵に銃撃され死亡。全世界の市民運動に深刻な衝撃。

日本でも代理母出産

米国では八〇年代から行われていた「代理母」。日本でも長野県で「妻の妹」によって実行されていたことが判明。米国では親権をめぐる訴訟が相次いでいるだけに、厚生労働省は全面禁止の方針。



歴史歪曲・女性蔑視の

「つくる会」教科書を採択させない！

西尾幹二、藤岡信勝氏らの〈新しい歴史教科書をつくる会〉が編集した中学校社会科の教科書（歴史分野・公民分野）が、ついに文部省検定を通ってしまった。採択の前から〈つくる会〉は各地の自治体に精力的に働きかけ、「全国の教科書のうち一〇％を必ず占める」と豪語している。

この暴挙に、多くの市民グループが検定合格反対・採択阻止の声を上げている。五月一日には渋谷区立勤労福祉会館でVAWW—NET Japanによる「緊急！女性集会」が開催された。急な呼びかけで、しかも連休の真っ只中にもかかわらず、定員の二倍以上の三五〇名が詰めかけ、会場は満員電車なみの混雑状態となった。

松井やよりさんの挨拶の後、西野瑠美子さんが〈つくる

会〉の教科書を女性の視点から徹底分析。歴史分野は、代表執筆者である坂本多加雄氏が「慰安婦はトイレの構造の歴史」と公言し、教科書には一行たりとも載せなかったこと、与謝野晶子の「君死にたまふことなかれ」を反戦の歌ではなく「弟が実家の跡取りであることからその身を案じて詠んだ」と家制度支持者として描いたこと、教育勅語を全文掲載していること、昭和天皇を見開きのコラムで紹介して讀え、戦争責任を無視しているなど、あきれるばかりの内容。公民分野も、家制度・夫婦同姓の強調、性別役割分担の強調、個人よりも公を優先、憲法改正を主張など、露骨な女性蔑視・国家主義的な記述があふれている。この教科書を採択させようと、〈つくる会〉は学校票方式（各学校で意見をまとめ、自治体の教育委員会に希望を出す）を攻撃して教育委員会に採択の権限があると主張し、実際に教科書を使う現場の声を遮断しようと画策している。

四月末、国会前で座込みをして訴えた、元「慰安婦」のハルモニもスピーチした。黄錦周さんは「私たちに謝らないどころか、便所呼ばわりするのか！それが世界で許されると思うのか！」と激しく〈つくる会〉を糾弾。金ウルレさんは「日本政府は私たちの死を待っているのかもしれない

ないが、恨みを晴らすまで死ねない」と、抑えた調子で訴えた。また、同時に来日した韓国YWCA代表からは、十万人分の抗議署名を集めたことが報告された。

そのあと、日本と同じく第二次世界大戦の敗戦国ドイツでの教科書の実態を、ドイツ日本研究所のニコラ・リスクーチンさんが報告。ヨーロッパでは共同教科書づくりが進んでいて、他国他民族の文化や歴史を尊重する視点に立っている。ナチスドイツについては、ナチスの犯罪のみならず、ドイツ社会がなぜナチスを支持してしまったのか分析して教科書に載せているとのこと。また、採択にあたっては、市民も教員も意見を出すことができるそうで、日本に比べて、オープンで民主的な方式であることに感心した。

各地の報告は、杉並と岡山から。へつくる会側の攻勢はすさまじく、教育委員会に関係者を送り込んだり、地方議会で採択を迫る請願を通させようとしたり、激しい攻防が続いている。最後に「採択阻止運動に向けたアピール」を採択。「この教科書を採択させないために、各地方議会に請願を出したり、教育委員会に学校票を尊重するよう要請したり、アジアと連携して行動しよう」との呼びかけに、黙っていてはいけなさと決意を新たにした。

(あ)

◆六月十一日(月)一八時半「歴史歪曲教科書を許さない!アジア連帯緊急会議」が東京・日本教育会館一ツ橋ホールで開催される(地下鉄東西線竹橋駅下車)。連絡先は、V A W W | N E T J a p a n (03・53337・4088)。

五・三憲法集会

五月三日、日比谷公会堂。めずらしく集会開始時刻の二十分前についた私は、何とか席が確保できてホッとしていた。これで、来たくて来れなかった友人に頼まれていた集会内容のメモが取れる、と。会場の熱気はすごくて、後ろの人たちが、「みんな危機意識があるから、来てるのよねえ」と話している。会場の外には、入れなかった二千名以上の人が立ったまま話を聞いていたという。

「各界からの発言」の中からいくつか紹介したい。まず、〈戦争への道を許さない女たちの連絡会〉からは、吉武輝子さん。「さあ皆さん、連帯して平和な社会を創っていきましよう!」というメッセージが、その身体からオーラとなつて放たれており、長年の活動というものは、言葉を発する以前の段階で伝播力があるものかと感じ入った。敗戦直後

の日本で多くの女性がレイプされ、自尊心を失った。そして今なお沖縄で、世界各地で、女たちが被害にあっていることに目を向けようと、短くも力強い言葉であった。

『平和憲法を広める狛江連絡会』の小俣さんは、「普通の市民が今、全国のあちこちで声を上げ始めれば、改憲派は無視できないでしょう。皆さん、立ち上がりましょう。どうやれば会が作れるのかわからない、という方はご連絡ください」とのメッセージ。今回一番私の印象に残った。「活動で、ちょっと疲れたなと思うと、憲法調査会の傍聴に行つてエネルギーをもらつて帰ってきます。そこでの与党議員たちのやつているのを見ると、これでも政治家か、と怒りが湧いてくるので」とのこと（ワカルワカル）。

高校三年生の平賀さんは、「大人たちは、歴史を切り開くリレーランナーとして、日本国憲法というバトンを次の世代に渡す必要がある」と主張し、私の耳には、大人のふがいなさを怒っているかのように感じられた。平賀さんのような若い人たちが連帯して永田町に『平和憲法に手をつけないで』という声を屈けて欲しい。そして、真に問われているのは、選挙権を持つ大人一人一人の自覚である。私自身を振り返つて、今まで、考えの深め方も行動も足りなかつ

たと反省している。二人の子の親として、いつの日か彼らに難詰されるような日が来ようとも、「お母さんとしては、できるだけことはしたのだよ」と言えるように、変わつていきたいと思つてゐる。

ノーマ・フィールドさんが運動に是非くつつけるべきだとおつしやつていた「文化」がこれなんだな、と思いつつ、中高生の憲法劇（ありがとう、みなさん！）やクラシック演奏を楽しみ、加藤周一氏と澤地久枝氏のお話へ。

加藤周一氏の話は、「みんなで憲法育てをしよう」――「現実には憲法を合わせる」など、とんでもない話で、現実と憲法的一致に努力しよう、というものであった。

「そもそも憲法とは、法律を含む、国全体がどこに向かつていくかの目標であるのだから、その話をせずに改正を言うのはオカシイのであつて、どこへ向かうのか、国全体の基本的姿勢がまず大事なはず。振り返つて、明治維新から今までを三期に分けると、第一期は『強兵』に始まり大成功を収め、敗戦という大失敗で終わった。第二期は六〇年代の『所得倍増』政策で、まあ成功したもの、平和は半分だけ実現で、人権や民主主義の観点から採点すると、かなり失敗。そして第三期の今、むやみに大企業優遇が目にな

つくが、国民の目標となり得るのは、平和・人権・民主主義なのではないか。国の安全保障の問題は、一国だけで備えても難しい。東北アジアとして信頼関係を築くほうが、軍備増強より現実的であり、『安全の為に軍備を』は、今や非現実的であり、逆だ」

十年以上も前の朝日新聞のコラム「夕陽妄語」において、「いつか来た道」への右傾化に注意を促された私は、この数年でその傾向に拍車がかかり、十六年ぶりの首相の公式靖国参拝が実現しそうな今、子どもたちを守りたいのであれば動きましよう！と、どんな友人であれ、話す覚悟がほぼ出来た。私にメディアリテラシーを獲得するための動機付けをして下さったとも言える氏に感謝している。

次なるメッセージは澤地久枝氏。二〇〇一年のお正月に澤地氏の『私の掲げる小さな旗』を読んで、実は作家の方に初めてのファンレターを書いた。それというのも、ペンの力に、さすがとひれ伏したいような気持ちにさせられ、平和を創っていくためにこれからも発信していただきたいと心から願ったからである。遠くからナマのご本人を拝見して、やはり言葉を発せられる前から「何か」を感応させられた。「そうだ、そうなのだ」と涙が流れてきて、どうしよ

うもなかった。二点だけその主張されたところをお伝えしたい。一点目は、確固たる「個」として、折あるごとに「私はこう考える」という意見を話していくこと。二点目はすでに大きくなりすぎた自衛隊を「国際緊急援助隊」に改変し、丸腰で世界のどこにでも救助のために行く任務を担ってもらう。「軍隊や武器では平和は創れない！ 国は国民を守ってはいけません！」それは何度聞いても、心の底から全くそのとおりだと打ち震えてしまふ、澤地さんの体験からくる文字通り靱いメッセージだった。

この後の社民党の土井たか子氏と共産党の志位和夫氏のお話は、字数の関係で触れない。銀座のパレードには参加できなかったが、当日の朝作ったフラカードを、前に座っていた若者に託した。それには、次のように書いた。「歴史の歪曲、許せません！ 正義の戦争などありません！」

今回、たくさんの方々が一堂に会する形で集会を設けることができたのは、憲法調査会監視センターの高田健氏の尽力が大きいと聞いた。ここで、この大集会を開いてくださった方々にお礼を言いたい。これからも、社会正義の為にできるところで必ず発信していかなければ、という思いを強めることのできた集会だった。

(神谷扶左子)



(NHK総合テレビ)

昨年五月、日中友好への貢献で勲五等宝冠賞を受賞、日本を訪れた中国の女性があった。北京の日中友好病院国際医療部部長、葉綺女史。最先端医療、三百床の病院の、医師にも患者にも深く敬愛されている女史の五十年前の名は野崎綾子。敗戦時は十五歳の日本の少女だった。

南満州鉄道調査部に勤める父を追って母と共に綾子が渡満したのは二歳の時。北京の高級住宅地に住み、小学校へ。ある日、学校でもらった写真帖を家に持ち帰ると、父は真つ二つに破つて燃やした。「東条英樹。日本で一番悪い奴。こんな写真を二度と持ち帰るな」——そして声を落として注意した。「しかし破り棄てた

ことは人に話すな」。少女はその頃、北京・南門の壁に、消されてもなお濃く残る文字を見る。「打倒日本帝国主義」。

満鉄を辞めた父は、敗戦の日、吉林の奥地で、六十頭の羊と二頭の馬を二人の中国人と飼い、理想の牧場をつくろうとしていたが、国境からソ連軍が押し寄せる。ロシア語に長じた父は通訳となる。

やがて八路軍がソ連軍に代わる。乱れていた治安はたちまち治まる。「日本人でも、人民は悪くない」と差別しない八路軍に深く心を打たれて、少女は八路軍に勤める。そこへ国共内戦。八路軍は防戦のため南下する。行動を共にしたいと懇願する少女。引き止めようとした両親も、「お父様はいつも中国に骨を埋める覚悟だと言っておられた」と迫る我が子の希望を、ついにかなえる。少女は「中国人女性・葉綺」となる。

看護士をしながら転戦した葉綺の献身と資質は兎に高く評価され、国費で中国初の西洋式医療研修の府、ハルビン医大

に学ぶ。成績優秀、将来の教授として大学に残ることを勧められた葉綺は、それを断わって臨床医の道を選ぶ。転戦した日々、地方で見た、貧しさゆえに一村ほとんど伝染病に冒されていた悲惨な光景が忘れられない。現場で尽くすことこそ、父の志した道のはず。と。

三十年近く消息不明だった綾子からの郵便が、ようやく父母の許に届いたのは、日中国交回復後だった。「昔の綾子」が生きていた！その凛とした生き方が、貧窮のどん底にいた家族を励ます。

彼女の軌跡は、八路軍の進撃風景など、日本人の知らないフィルムもまじえて、観る者の心をとらえて離さない。そして、親の志を生かそうと中国人になった葉綺の姿は、親に背いて中国に赴いた長谷川テルと二重映しになる。

言葉も日本名も忘れてしまった無数の残留孤児の姿を思い浮かべて、ただ嘆息した。「あの戦争」の真実の一部を改めて示す、すぐれたドキュメント。(千)

超保守県千葉の流れを変えた堂本知事の誕生は、新聞・テレビ・週刊誌等々で数多く取り上げられたが、ご本人と仕掛け人から直接お話を聞く集いが、四月十七日、東京・有楽町で開かれた。主催は111（ワン・ワン・ワン）日本のトップ層で活躍中の女性111人のグループ。ここが呼びかけた、女性を政界に送り出す支援グループ（WIN WIN）が今回の知事選のサポーターになったという縁もあり、メンバーの半数近くが集まった。週刊朝日で冷やかされた赤いスーツの堂本さんは、このスーツはイギリスのブランド店のセールで一万五千円で買ったもの、と破顔一笑してお話が始まった。知事選への仕掛け人は、実は下村満子さんで、「今回は参議院選も危ない。とすれば、思い切って知事選にチャレンジを」と、新しい流れを求めている千葉の市民たちの求めに乗って、玉碎覚悟で立ち上がった由。下村さんも傍から証言を。

千葉では、「堂本Who?」という感じ

だったが（WIN WIN）には四六〇万円ものカンパが集まり、これを基に五〇〇万円で事務所を開設、あとはひたすらミニ集会。電車の中でも語りかけ、街頭演説なしの「県民の声をひたすら聞く」キャンペーンが、風でなはく渦になった。

堂本さんを取り巻いたのは、茶髪のおニイさん、ガングロ少女、腰の曲がったおばあさん、畑で働く農婦など、多種多様。ほとんどが、これまで選挙には縁のなさそうな人ばかり。堂本さんたちはカンパ箱を持って歩いたが、ある時、小さな子どもが一円玉を山ほど入れるのを見て、「勝ったー」と思った由。その一方、背広の紳士は一万円札をポンと入れ、街頭カンパは毎日十万円。全国からの送金

も含めて、カンパ総額は二千万円に。「知事選は十億円」が相場だが、これですべてをまかない、投票日は、それなりに、手作りの旗指物も出揃った。しかし、マスコミは最初は全くの泡沫候補扱い。投票三、四日前から俄に堂本さんに視線が向けられるようになったという。

しかし開票が始まってもカメラはなかなか堂本さんの方を向かない。そのうち、あるジャーナリストが「NHKの動きに注目しなさい。NHKがカメラをこちらに向けたら勝ち」と、ささやいた。

夜も更けてNHKのカメラが堂本陣営にカメラを振ったときは、思わず内心拍手。ホテルで待機中の堂本さんの携帯にさつそく連絡したが、堂本さんはまだ成功感がなく、姿を現さない。そのうち突然、TVの画面に堂本・当確の文字。事務所じゅう、割れるような拍手。茶髪もガングロも、みんな抱き合って泣いた。終わってからの分析では、「堂本さんに入れたのは、無党派層ではなく、自民・

選挙に勝った 堂本さん

斎藤千代

民社・社民などに今まで入れていた人たち。前回共産に入れた人の一〇%も、堂本さんに回っていた。「勝因は徹底的な政党への失望。どこからも推薦を受けなかったのが、結果的には良かった」「それと、千葉県民の長年の女性差別。女性たちが今までどんなに苦しんで来たかが、よくわかった」とのこと。堂本さんの手を押していただいて、「どうか助けて下さい」と涙を流す老女もいた。「唯一の女性候補、堂本さんは、救いの神のように見えたようだった」と、下村さん。

「しかし、千葉は、想像以上に大変なところ。成田闘争の深い傷を、今も引きずっていることもわかった」「それでも、どのグループの長にも、どのボスにもあいさつをせず、推薦を取り付けなかったのが、結果的にはよかった。もしも方々にお辞儀をしていたら、今後、どれほどの呪縛になるかわからないところだった」と語る堂本さんの表情は晴れ晴れとして、私は久しぶりに、十二年前ジャー



ナリスト時代の堂本さんを思い出した。

実は、八年前、私たちが一年近く、朝も夜も土曜も日曜もなく心魂を傾けて到達した「参議院での小選挙区制否決」を、堂本さんがくつがえす方向で行動して以来、私は堂本さんとは一線を画してきた。

それでも「あごろ」の会員であり続けて下さった堂本さん。本来なら知事選には真つ先に駆けつけて旗を振らねばならないところだったが、一徹な私は旗は振れなかった。『あごろ』誌上では紹介し、新潟・群馬はじめ、各地の「あごろ」の方々が駆けつけてくださった。

私は、この夜の、すがすがしい堂本さんのお顔を見て、八年ぶりに握手をした。考えてみると、この八年、堂本さんに

もつらい日々だったろう。その歳月は、堂本さんを大きく育てたに違いない。

知事という、精神的にも肉体的にも大きなエネルギーの要る仕事を、テレビの世界で鍛えた能力と体力で、堂本さんは見事にやりとげてくださるだろう。

会の後で、下村さんはそつと語った。

「実は、最終日、希望はほとんどなかったの、千葉まで行つたのよ。落選すれば潮が引くように人は去る。そばにいて、一緒に泣く人が必要だと思って」と。

当選の夜から下村さんは、四十度の熱が続いたという。こんな友情が周りにあるかぎり、堂本さんは、「市民の代表」を貫き徹せるだろう。

「忙中閑あり」という言葉が好きです。

この閑とは、忙しいから閑に逃げるという意味ではなく、忙しい時こそ、平静、冷静な心が必要という意味です」と、最後に締めくくった堂本さん。

三番ヶ瀬、成田はじめ数々の難問も、明るい笑顔で乗り越えて下さると信じる。

ハンカチの叫び

普天間の空・大地は私たちのもの

4・28 普天間基地包囲

宜野湾市の女性グループ「ヘカマドゥ小の集い」が主催した平和メッセージハンカチによる普天間基地包囲行動「ハンカチの叫び」が、四月二八日に実施された。「ヘカマドゥ小」が普天間基地でハンカチ行動を行うのは、昨年五月十四日、七月二日に続いて三度目で、最も大規模な行動になった。今回、当初は五年前に政府が普天間基地返還を約束した四月十二日を考えたが、木曜日であるため、サンフランシスコ講和条約締結の日である二八日（土）に設定したとのこと。

普天間基地の周囲は十一・五キロ、必要なハンカチの枚数は三万八千枚。日本全国からのみならず、海外からも送られてきたメッセージハンカチは、三月の段階で五千枚に止まっていたが、当日までには見事三万枚を突破した。

当日は午前十時に五十人ほどが普天間基地第二ゲート前に集合、基地のフェンスにつないだハンカチを結

びつけ、足場が悪い場所やハンカチが足りないところは赤いリボンでつなぎ、午後四時、普天間基地包囲が完成した。参加者は「ヘカマドゥ広場」と名付けた第二ゲート前で交流会を持ち、改めて「普天間の空・普天間の大地は私たちのもの」と確認しあった。

◆この行動に「あごら」の会員の皆様からもハンカチをたくさんお寄せいただきました。ありがとうございます。

市民の七割「必要な」泡瀬干潟埋め立て意識調査

沖縄市泡瀬干潟は、多様な生物に恵まれた自然の宝庫。沖縄本島最大の渡り鳥の飛来地として知られているが、一九八七年から十四年を経た沖縄市の東部海浜開発計画が、いよいよ八月に着工の運びとなり、埋め立てられようとしている。

四月二七日、「沖縄環境ネットワーク」は泡瀬干潟埋め立てについての意識調査で、沖縄市民の約七割が「埋め立ては必要だと思わない」と答えていると発表した。調査によると、埋め立ての計画を知ったのは「最近（一

年以内」と答えている人が四一%、「埋め立ては必要だ
と思うか」という問いに「必要」と答えたのは約一〇%
にとどまり、六八%が「必要と思わない」と回答した。
泡瀬の埋め立て工事の凍結か、推進か、の意思を問
う市民投票条例制定を目指す泡瀬干潟を守る連絡会
は条例制定に必要な署名を集めている。

締切は六月五日。問い合わせは沖縄市胡屋一―五―四
の同会へ。TEL/FAX 098・921・4455

へわた―市長を選ぼう会 名護市長候補を公募

四月二七日、名護市でへわた―市長を選ぼう会
が結成された。「わた―」とは「私たちの」という意
味。来年一月に迫った名護市長選挙で、米軍ヘリポ
―基地建設計画を推進する現在の市政を改め、市民と
ともに市政を進めていける市長を誕生させることが目
的。市長候補者は名護市内、沖縄県内にとどまらず、
全国的に公募する。市長候補者応募資格は、名護市に
在住、または名護市に移住し、市民とともに行動でき
る人。基地建設に反対であることを原則とする。応募

は、自薦のみとする。

応募者は、応募にあたっての所信および基地・経済・
産業・環境・福祉・教育・文化など市政全般にわたる
基本政策を明示し、それをいかに実行していくかを論
文として提出することが義務づけられ、論文の内容や
公開討論会などを通じて市長としての資質・能力が判
断され、会員の投票によって、市長候補者を決定する。
名護市在住の選挙権のある方なら、千円の会費納入で、
候補者選考の投票権がある会員になることができる。
それ以外の方でも賛助会員になることが可能。

討論会、対話集会、演説会などは、会員、賛助会員
以外の方でも自由に参加できる。最終的には市長候補
者を一人に絞るが、より多くの人材を幅広く集めて、
最も市長候補者にふさわしい人を選ぼうというのが公
募の趣旨。応募期間は二〇〇一年五月七日から六月十
六日まで。応募要項は左記にお問い合わせを。

◆わた―市長を選ぼう会・事務局

〒905・0017 名護市大中一―一八―三五（四
階）TEL/FAX：0980・54・8511

<http://www5.ocn.ne.jp/~watta>

語りかけたいあなたへ 36

大里知子

ゲームボーイ

小型で手軽な、誰にでもできるゲーム機「ゲームボーイ」が、ものすごい勢いで流行りだしたのが、今から十一年ぐらい前の、ちょうど甥の大が幼稚園の年長組の頃だったと思う。はじめは、子どものオモチャぐらいにしか考えていなかったのだけれど、だんだん姪や甥たちの両親まで夢中になりだした。私は、どうせ操作が難しくてできないだろうと、誰かがゲームに興じているのを、ただ見ているだけだった。

この「ゲームボーイ」には、「スーパーマリオ」「テトリス」「ドクターマリオ」「フヨフヨ」「囲碁」などのソフトがたくさんあって、みんなはそのときどきの気分でいろいろソフトを替えてやっている。私は、その中の一番操作が簡単そうに見える「テトリス」が、自分にもできるような気がして、姪や甥が学校へ行っている時を見計らって、挑戦してみたのだった。

たしかに「テトリス」は数あるソフトの中でも操作が最も簡単で、私の片手でもなんとかできた。「テトリス」というのは、長細かったり四角かったりしているブロックを、はみださないように四段積み重ねると、みんな消えて得点につながる。長いブロックと四角いブロックがどんどん出てくるのを、素早く見て四段並べて消さなければ、たちまちブロックが画面いっぱいになってゲームオーバーとなつてし

まう。

この「テトリス」は、レベルが一から十まであって、レベルが上がると得点も多くなるけど、ブロックも早く出てくるので、私の手では間にあわなくなる。

私の手には、レベル四が限度だった。それでも指の方がもたついて、すぐゲームオーバー。得点のほうもせいぜい五、六千点とまり。姪の明子たちは、三十万点、五十万点と得点を上げていくのに、私は一万点にもなったことは一度もなかった。コンピュータゲームの持つ魅力は、不思議な力を持っていて、私は姪たちが学校へ行っている間は毎日「テトリス」とともに過ごした。

そのうち、私の「ゲームボーイ」熱も、しだいにエスカレートしていき、ついに私専用の「ゲームボーイ」を購入。

私は何かをやridすと、とことんのめり込んでいく性格なので、自分用の「ゲームボーイ」では、やりたい気持ちに任せて朝となく夜となく、長時間同じ姿勢で夢中でやっていたものだから、目が疲れたり肩が凝ったり症状がひどくなってきた。それでも、相変わらず続けた。

ある日のこと、私の指は止まらないで動き続けて「テトリス」のブロックが、不思議なほどスムーズにどんどん消えていき、得点を見ると五万点をすでに超していた。それから得点は、さらに上がり十万点を突破してしまった。十万点を突破して、いくらもたないうちに、ついにゲームオーバーとなってしまった。いくら得点など問題ではなく、ゲームが楽しければいいと、あれほど思っていた私も、一挙に自分でも考えていない十万点を獲得すると、もうこれでやめてしまってもいいという気になり、私としては諦めよく「極めたり「ゲームボーイ」とばかり、スパッと私の手元から放してしまった。

身体に、しびれが始める少し前のことで、現在のように動かない身体になるなど、全然想像もしなかったし、考えもしなかった時のことだった。

あごら読書室

六ヶ所村 核燃基地のある村と人々

島田 恵 写真・文

高文研 刊

下北半島の首根つこの六ヶ所村。七〇年代初めに巨大石油コンビナート基地建设を目指した「むつ小川原開発」が村人の強硬な反対の力で頓挫した。だが八〇年代半ばに「核燃料サイクル基地構想」が突然公表され、漁民たちのしたたかな抵抗と揉み合いながらも、昨年十二月に使用済み核燃料の本格搬入が始まった。今、二〇〇五年の始動に向けて、権力のクレールンが、写真集の中に轟音を立てて稼働している。

島田恵さん。わたしはこの写真集で初めて出会った女性だ。しかし頁を繰るにつれて彼女のハートから立ち上る思い（思想）がわたしの個人史に乗り移り、写真集に指を食い込ませてしまった。

「六ヶ所村を撮っていいこう」という意志の原点は、核燃料基地調査団に熾烈に対峙する漁民たちの姿だった。「この真剣さはどこから来るのだろうか。そのなぜが知りたくて」六ヶ所村通いが始まる。通って五年、移り住んで十年の島田さんと村人の身の丈ががっちり結び合った一冊である。

海の幸と共に生きる漁民。漁業権を放棄するわけではない。トツチャ（父ちゃん）たちの「核燃料から漁場を守る会」、カッチャ（母ちゃん）たちの「核燃料から子供を守る会」の反対運動は、一筋縄で権力と対抗できたわけではない。賛否両側の血で洗うような争い・対立もあった。

だが、内なる苦しみを超えて権力に向き合う漁民たちの表情の瞬間が、六ヶ所村の現在を読者に突きつける。視察に訪れた科学技術庁長官に抗議するトツチャの厳しい表情は、そのまま命と暮らしへの

慈しみを読み取らせずには置かない。浜で暖をとるカッチャたちの伏目は、核が侵し続ける大地の皮膚を見透している。

切り取られた緊迫の表情としぐさのすべてが、同時にしたたかでしなやかな余裕を漂わせるのはなぜだろう。「伝えたい思い」に震えるシャッター音の確かさと、身を賭けた反対運動が、地球の近未来の危機に裏打ちされた後に退けない信念からではないか。どのように強引な権力の攻勢にも、身の丈いっばいに抵抗できる海で鍛えた魂。たとえ六ヶ所村に行かなくても、過疎の村を食い潰して、都市の蟹気楼の中で頁を繰る読者の胸に刺さってしまふ迫力。



権力つて、何だろう。明解な答えが出せなくてもいい。わたし自身の内なる問いを幼少期に育み持続させてくれたのは、六ヶ所村と同じ北の風土の津軽だった。それぞれに今、ここに生きる自分の暮らしにほんの少し棹さしながら、権力への問いを掬い上げるこの写真集を身近に住まわせてみませんか。(しま・ようこ) (A5判 一六〇ページ 二〇〇〇円)

朝鮮の虐殺

吳連鎬著

大畑龍次／大畑正姫 訳

太田出版 刊

老斤里(ノグンリ)は朝鮮半島の内陸、忠清北道永同郡にある村。朝鮮戦争中の一九五〇年六月二五日、永同郡の村々に住む七百余名の住民は米軍の避難勧告を受け、歩いて移動していた。朝鮮人民軍に対して不利な戦況にあった米軍は、老斤里で道路を遮断し、避難民に「鉄道の線路に上がれ」と命令した。彼らを持つ

ていたのは…米軍爆撃機のすさまじい狙い撃ち。吹っ飛んだ子どもの首、ぐにやりと曲がった線路。生き残った避難民たちはトンネルに追い込まれ、米軍はそこでまた銃撃した。死亡者三百名余。なぜ軍人でもない住民が虐殺されたのか。人民軍ゲリラ部隊に苦しんだ米軍では、こんな命令が出ていたという。「疑わしい避難民はすべて殺せ」。

著者、吳連鎬(オ・レンホ)氏が老斤里事件を初めて知ったのは、一九九四年五月。『主よ、われらの痛みを知りたまえ』——事件を直後に知った鄭殷容(チヨン・ウニョン)氏のルポからだった。月刊誌『マル』の編集者だった吳氏は鄭氏とともに現場検証をし、生存者の話を聞き、記事にまとめたが、老斤里事件が世界的に大きく知られたのは、AP通信の一九九九年九月の報道だった。

虐殺は老斤里だけではない。忠北丹陽郡のコケ窟で三百名以上、泗川市昆明面で五四名、馬山市合浦区鎮田面で八三名

……米軍による住民虐殺は、老斤里報道がきっかけで次々と明らかになった。

朝鮮戦争休戦後、韓国には米軍が駐留するが、その犯罪もすさまじい。被害者の多くが子どもと女性。おびただしい犯罪はすなわち米軍が「韓国人を人間とみなしていない」証拠だと著者は断罪する。

なぜ老斤里をはじめとする虐殺事件が今まで隠されてきたのか、なぜ在韓米軍は犯罪をやりたい放題だったのか。北朝鮮との対立の中で、反共「韓米友好関係」が免罪符であったと著者は指摘する。「二十世紀の野蛮から決別しなければならぬ」と著者は述べる。韓国に対しても、沖縄に対しても、米軍の行為は「野蛮」というにふさわしいものなのだ。

日本はどうなのか。朝鮮民族の人権を奪った歴史を、否定しようとする動きも「野蛮」ではないのか。本書は米軍と同時、日本にも問題を突き付けていることを、忘れてはならない。(れ)

(B5判 二七八ページ 二二〇〇円)

◆二世紀も『あごら』の洪くしなやかな輝きをささえる一人でありたいと思います。

(新潟市 丹羽昭子)

◆最近の号の迫力、すごいですね。スタッフの方々のご努力に敬意と感謝を捧げます。ご心身くれぐれもお大事に！

(福岡市 小島サカエ)

◆新世紀も「あごら」からの情報を活かし、がんばります。勉強します。どうぞ、よろしく！

(高岡市 大村雅子)

◆気を許せば、安易な方向に流れてしまふ、そんな時勢にあつて「あごら」の志の高さはとても貴重なものに思えるのです。

(上越市 古川美由紀)

◆見逃してはならない日本社会の現実を、いつも詳細に伝えて下さって、ありがとうございます。

(所沢市 広田寿子)

◆『あごら』からいつも紙面で感動と勇気をいただいています。斎藤さんはじめ皆様お元気でいて下さい。

(広島市 山本紀子)

近況報告

◆十年間の公民館活動を通じて得た友だちと、八年前に在宅介護の支援事業所を立ち上げました。今年NPO法人をとり、四月から介護保険事業に参入しました。いろいろ問題のある介護保険ですが、人並みの給与を皆もらえようになりまし

た。施設や環境がととのえば、老いても自分らしく生きられるのではと、最近思っています。(秦野市 日川和子)

◆昨年一月末で退職しました。三十七年間働き続けた職場から離れて、今は毎日が日曜日です。長女、次女が自分たちの家庭を持って自立していききました。子どもたちの家庭の有り様が、今一つ不安に思えるこの頃です。振り返って、自分が子育てと仕事を両立する中で、子どもたちに「自立して生きる」ことをどれだけ伝えられたか、「女は家庭にあつて家事・育児」を当然視してもらいたくないのですが。(春日部市 石崎雅子)

◆何もできませんが、最低限、一生、あご

ら会員であり続けようと思っています。

最近、七〇年代ウーマンリブの再検証の必要性を感じて、いろいろ資料を集めています。フェミニズムが停滞しているように思うからです。『あごら』にも何か参考になることが少しでも載ればいいなと思っています。どうぞ末永くよろしくお願い致します。(札幌市 加我博子)

「ニューパワー」

皆様のお力添えで、新会員が続々誕生。

〔澤田和子さん〕紹介

畑歌夜子さん(相原市。大阪市立婦人会館で、長年女性史を研究)

宮地光子さん(大阪市。住友裁判に心血を注ぐ弁護士)

甲田恭子さん(東大阪市。女性に関するユニークな地域誌「クライス」の代表)

〔鈴木勢子さん〕紹介

内田洵子さん(新潟市。女性、福祉、反核など、市民運動でも最前線で活躍の新潟市議)

BOCの常勤スタッフ(正社員) 急募

編集が事務ができる方。学歴・年齢・

国籍は問いません。(あごろ)の趣旨に

共鳴する方。心やさしい方。力持ちの

方。お茶目。有言実行等々。

勤務時間は朝九時から午後五時。毎

週土・日はお休み。ほかに創立記念日

(五月一日)と平和を祈る日(八月十

五日)がお休み。有給休暇は、初年度

十二日。最高七十日。

「高給優遇」と言いたいところです

が、残念ながら現在は零細企業相当

でも、温かく楽しい職場だと思います

ワークシェアリング制度もあります。

◆ハガキ一枚に、ご自分の長所と、得

意なことを、できるだけたくさん。

ご希望の給料も書いて、なるべく早

くご連絡を。

◆パート希望の方は働ける時間帯も。

◆地方で働きたい方も、ご連絡くださ

樋口由美子さん(新潟市。新潟県教組書記長。反核など市民運動でも活躍)

「金子裕美子さん」紹介

勝田登志子さん(富山市。高齢・家族関

連の専門家として多年活躍)

「辻みゆきさん」紹介

舟越美夏さん(カンボジア・プノンペン

市。通信社記者。きつといい記事を書いて下さいますヨ)

「あごろの存在を知って」

神合扶佐子さん(鎌倉市。アメリカから

帰国。神奈川県女性センターで「あごろ」

を読んで感激。さつそくテープ起こしな

ど手伝って下さっています。

谷川幸子さん(静岡市。ボランティア活

動に興味をもたれ(あごろ)に参加)

川村幸子さん(横浜市。DV号で「自立

への支援——女性と生活保護」を執筆。

福祉事務所勤務)

吉澤悦子さん(福岡市。福岡市市民局女

性部にお勤め)

〔編集後記〕

◆世界のフェミニストたちに会うたびに、そのやさしさ、女性だけでなく、人類全体の差別撤廃にひたむきな姿に心を打たれます。そして、日本に帰ると、日本のもここにも、声高ではないけれど一所懸命働き、尽くしている女性がたくさんと多いこと！ ITの普及で、この言語とでも一瞬に通じ合える「携帯自動翻訳機」が、一日も早く出来ないものかと思えます。「あたりまえの男と女」が、ダイレクトに話し合えるといい……。これは、アフリカや西アジア、中南米の女性たちからも聞いた話です。それにしても、二〇〇五年沖縄フォーラム、何とかして実現したいですね。(千)

◆二月の「あごろ活動家会議」で、どうすればもっと楽しい誌面ができるか等が真剣に話し合われました。「忙しい」「お金がない」を逃げ口上していたのではなにかと、事務局一同大反省。少しずつでも今後の編集に生かしていきます。(い)

8月24日(金)～26日(日)女性学・ジェンダー研究フォーラムでお会いしましょう 今年も嵐山に「あごらメイト」のワークショップがたくさん…

24日(金)

16時～18時

女性がいきいきと働くために……ネットワークのつくり方(さわの会)(大阪)
戦争とジェンダー(あごら沖繩)

25日(土)

9時半～11時半

職場での女性の地位向上と裁判 提訴から高裁勝利までの14年(あごら新宿)
中高年女性と労働市場(日本向老学会)(東海)

〃

13時～15時

女性が生き方、働き方を選べる時代ですか?(共生ネットワークTekuTeku)(鹿児島)
住友裁判最前線・ジェンダーバイアスを持つ裁判官を回避ー(WWN)(大阪)
バックアップスクール鹿児島(鹿児島県内の女性議員を百人にする会)

〃

16時～18時

『女性への暴力ホットライン』開設から見えてきた山口県の実態(女性への暴力ホットライン山口)
農村と都市の共同参画 女性の起業は何をめざすか!!(WAN)女と農「ネットワーク」(神奈川)

26日(日)

9時半～11時半

岡谷鋼機女性差別裁判(おかやの差別をなくす会)(東海)
NPOと男女共同参画(NPOウィン女性企画)(東海)

〃

〃

結婚・離婚・労働(五年別居離婚に反対し、女性の自立を考える会)(東海)
桑名市の男女平等参画推進条例づくりへの取り組み(くわなウィン)(三重)

8月24日(金)夜、宿泊棟で「あごら交歓パーティ」。どなたも参加を!

◆場所は国立女性教育会館(NWEOC)

池袋から特急で一時間。東武東上線「武蔵嵐山」駅下車
TEL049333626711

あごら 267号 21世紀の女性政策

●発行2001年6月10日

●編集 あごら新宿

●発行所 あごらMINI編集部 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

●TEL 03-3354-3941 ●FAX 03-3354-9014 ●E-mail XLV05467@nifty.ne.jp.

●定価 本体643円+税 ●振替 00100-0-5264



9784893061140



1920036006434

ISBN4-89306-114-3

C0036 ¥643E

女による女のBOC 出版部
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

定価 本体643円＋税

企画・編集・翻訳…
何でもご相談ください

創業1960年 —
女性専門職集団
BOC

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4
☎03-3354・3941 FAX03-3354・9014
E-mail XLV05467@nifty.ne.jp.

NPOウイン女性企画

〒460-0008 名古屋市中区栄3-28-2
☎052-251-9109 FAX261-8778

『あこら』を読みそうな方を紹介ください。
あなたのお名前で見本誌をお送りします。

廃刊の危機にさらされながら、「灯を消さないで」の声に支えられて刊行を続けている『あこら』。危機解消のために会員倍増キャンペーンを始めました。一人が一人、会員を増やしてください。たちまち倍になります。「会員になりそうな方」の、ご住所、お名前をお知らせください。見本誌をお送りします。バックナンバーの中で、その方に向きそうな号のタイトルも、ご一報ください。あなたのお名前、お贈ります。ご連絡をお待ちしています。

〒160-0022 新宿区新宿1-9-4
TEL03・3354・3941 FAX03・3354・9014
Eメール XLV05467@nifty.ne.jp あこら事務局

この ひろい宇宙に
たった一つの地球
その 大きな地球に
たった一人のわたし
そして あなた

かけがえのない地球
かけがえのないわたし
かけがえのないあなただから
たいせつにたいせつにしよう
あなたも
わたしも
地球も

たった一度の人生
たった一つの地球
だから

思いきりのびやかに生きよう

だけれど だれをも
ふみしだくことなく

胸の底まで深く息をし

ああ 生きててよかったねと
ほほえみあえる地球にしよう

へあこら

人と人の出会うひろば

へあこら

人と人の共に生きるひろば